

荷竹日影Ⅱ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路関連遺跡発掘調査

序

岩手県には旧石器時代から連綿と続く数多くの遺跡が残されています。先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県にあっては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設に関連して平成27年度に発掘調査を行った荷竹日影Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものです。

今回の調査によって古代の堅穴住居跡や土坑などの遺構が検出され、その周辺からは生活に使われた土器や鉄製品などの遺物が見つかりました。これらの結果から、当時、この地で暮らしていた人々の様子の一端が明らかになりました。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財行政に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、宮古市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成29年2月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例 言

- 1 本報告書は岩手県宮古市津軽石第15地割33-1ほかに所在する荷竹日影Ⅱ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所との協議を経て、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。
- 3 本遺跡の調査成果は、すでに「平成27年度発掘調査報告書」(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集)において発表しているが、内容については本書が優先する。
- 4 岩手県遺跡登録台帳に登録されている遺跡番号と遺跡略号は次の通りである。
遺跡番号 LG 63 - 0280 / 遺跡略号 NHKⅡ - 15
- 5 野外調査の面積・期間・担当者は次の通りである。
調査期間 平成27年4月16日～7月10日
調査面積 2,100㎡
担当者 溜浩二郎・佐藤剛・立花雄太郎・河村美佳
- 6 室内整理の期間・担当者は次の通りである。
整理期間 平成27年8月31日～9月24日、平成27年11月1日～平成28年3月31日
担当者 溜浩二郎・立花雄太郎・河村美佳
- 7 遺物の鑑定は次の機関に依頼した。
石材鑑定：花崗岩協会
炭化材樹種同定：阿部利吉(前木炭協会会員)
- 8 基準点測量は株式会社鈴木測量設計に委託した。
- 9 本報告書の編集については、第I章「調査に至る経過」は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所に原稿を依頼し、執筆していただいたものである。他は溜が執筆した。
- 10 本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図などは岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 立地と環境	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	5
3 基本層序	7
III 野外調査と室内整理	8
1 野外調査	8
(1) 野外調査の経緯	8
(2) グリッドの設定	8
(3) 基準点の設定	8
(4) 表土除去と遺構の検出	8
(5) 遺構の精査と実測	8
(6) 写真撮影	10
2 室内整理の手順と方法	10
(1) 作業経過	10
(2) 遺物の整理	10
(3) 掲載図	10
(4) 写真の整理	10
IV 検出遺構	12
1 竪穴住居跡	12
2 土坑	39
3 焼成遺構	40
V 出土遺物	45
VI 総括	60
報告書抄録	91

目 次

第1表 周辺遺跡一覧表……………	6	第4表 鉄滓一覧表……………	58
第2表 測量杭一覧表……………	9	第5表 土器重量表……………	59
第3表 遺物観察表……………	50～57		

図 版 目 次

第1図 遺跡位置図……………	2	第20図 S I 05 竪穴住居跡3……………	29
第2図 地形分類図……………	3	第21図 S I 06 竪穴住居跡1……………	30
第3図 遺跡周辺の地形と調査範囲……………	4	第22図 S I 06 竪穴住居跡2……………	31
第4図 周辺の遺跡分布図……………	6	第23図 S I 07 竪穴住居跡1……………	32
第5図 基本土層……………	7	第24図 S I 07 竪穴住居跡2……………	33
第6図 グリッド配置図……………	9	第25図 S I 08 竪穴住居跡1……………	34
第7図 遺構配置図……………	11	第26図 S I 08 竪穴住居跡2……………	35
第8図 S I 01 竪穴住居跡1……………	17	第27図 S I 09 竪穴住居跡1……………	36
第9図 S I 01 竪穴住居跡2……………	18	第28図 S I 09 竪穴住居跡2……………	37
第10図 S I 02 竪穴住居跡1……………	19	第29図 S I 09 竪穴住居跡3……………	38
第11図 S I 02 竪穴住居跡2……………	20	第30図 S K 01～04 土坑……………	42
第12図 S I 02 竪穴住居跡3……………	21	第31図 S L 01～04 焼成遺構……………	43
第13図 S I 03 竪穴住居跡1……………	22	第32図 S L 05・06 焼成遺構……………	44
第14図 S I 03 竪穴住居跡2……………	23	第33図 遺構内出土遺物1……………	46
第15図 S I 04 竪穴住居跡1……………	24	第34図 遺構内出土遺物2……………	47
第16図 S I 04 竪穴住居跡2……………	25	第35図 遺構内出土遺物3……………	48
第17図 S I 04 竪穴住居跡3……………	26	第36図 遺構内出土遺物4、遺構外出土遺物……………	49
第18図 S I 05 竪穴住居跡1……………	27		
第19図 S I 05 竪穴住居跡2……………	28		

写真図版目次

写真図版1 航空写真、調査区……………	63	写真図版16 S I 07 竪穴住居跡2……………	78
写真図版2 調査区、基本土層……………	64	写真図版17 S I 08 竪穴住居跡1……………	79
写真図版3 S I 01 竪穴住居跡1……………	65	写真図版18 S I 08 竪穴住居跡2……………	80
写真図版4 S I 01 竪穴住居跡2……………	66	写真図版19 S I 09 竪穴住居跡1……………	81
写真図版5 S I 02 竪穴住居跡1……………	67	写真図版20 S I 09 竪穴住居跡2……………	82
写真図版6 S I 02 竪穴住居跡2……………	68	写真図版21 S I 01～04 土坑、 S L 01 焼成遺構……………	83
写真図版7 S I 03 竪穴住居跡1……………	69	写真図版22 S L 02～04 焼成遺構……………	84
写真図版8 S I 03 竪穴住居跡2……………	70	写真図版23 S L 05・06 焼成遺構……………	85
写真図版9 S I 04 竪穴住居跡1……………	71	写真図版24 遺構内出土遺物1……………	86
写真図版10 S I 04 竪穴住居跡2……………	72	写真図版25 遺構内出土遺物2……………	87
写真図版11 S I 05 竪穴住居跡1……………	73	写真図版26 遺構内出土遺物3、 遺構外出土遺物……………	88
写真図版12 S I 05 竪穴住居跡2……………	74	写真図版27 鉄滓類1……………	89
写真図版13 S I 06 竪穴住居跡1……………	75	写真図版28 鉄滓類2……………	90
写真図版14 S I 06 竪穴住居跡2……………	76		
写真図版15 S I 07 竪穴住居跡1……………	77		

I 調査に至る経過

荷竹日影Ⅱ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（山田～宮古）の事業区画内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城・岩手・青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成24年12月26日付け国東整陸一調第1071号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年1月10日～11日にわたり試掘調査を行い、平成25年1月22日付け教生第1500号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成27年4月10日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)

II 立地と環境

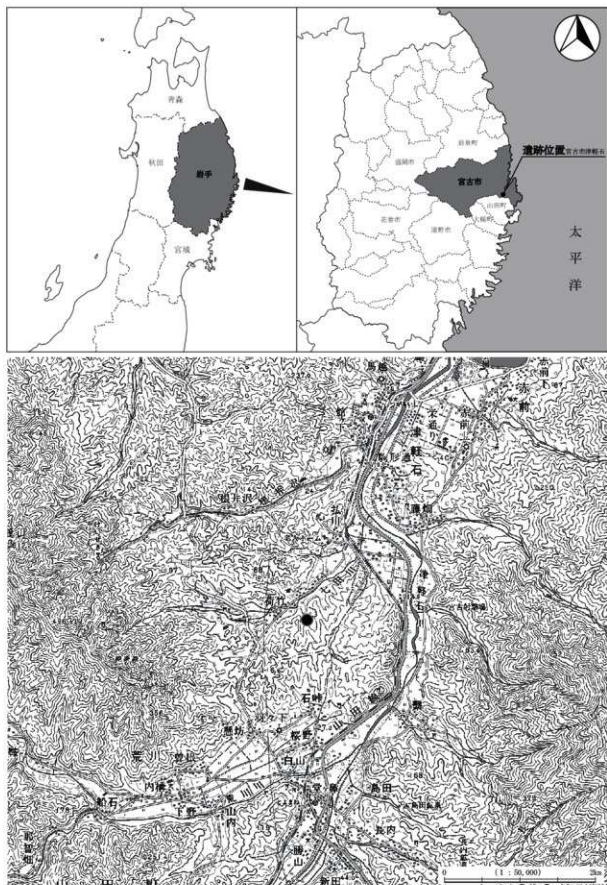
1 地理的環境

荷竹日影Ⅱ遺跡は、宮古市津軽石第15地割、北緯39度33分32秒、東経141度55分20秒付近の地点に位置し、国土地理院発行の5万分の1地形図「宮古」NJ-54-13-3（盛岡3号）の図幅に含まれる。

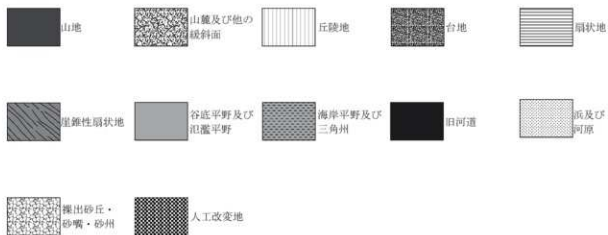
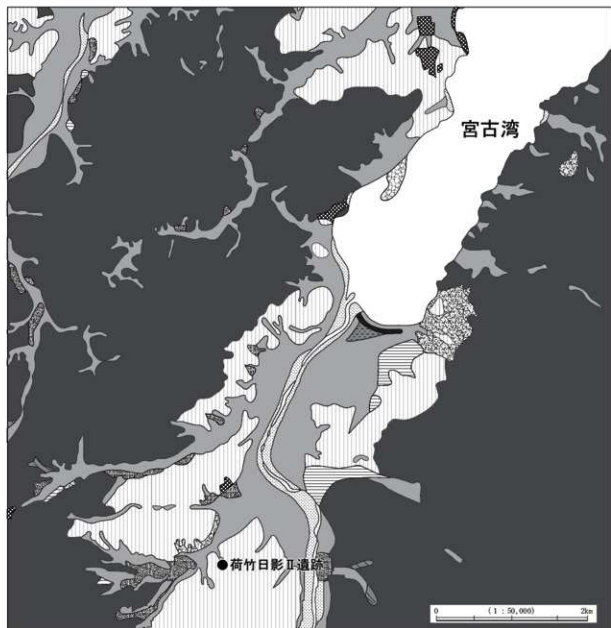
宮古市は、岩手県の最東端に位置し、北側で下閉伊郡岩泉町、西側で盛岡市・花巻市、南側で遠野市・下閉伊郡山田町・上閉伊郡大槌町とそれぞれ接し、また東側は太平洋に面している。現在の宮古市は、平成17年6月に下閉伊郡田老町・同新里村、平成22年1月に下閉伊郡川井村と合併し、人口56,080人（平成27年12月1日現在）、面積1,259.89km²内で東には三陸海岸、西には早池峰山をはじめとした北上山地の山々を有する広大な市となっている。

宮古市の地形は、北上山地東縁から続く山地が大きな割合を占め、市内を東流する閉伊川などの河川が形成する谷上地形に低地や台地が作られる。地質は、宮古花崗岩の通称で知られている、中生代白亜紀前期の磁鉄鉱系列のトーナル岩～花崗閃緑岩で占められている岩体が見られる。一方、東部の重茂半島では様相が異なり、大浦花崗岩として知られている、花崗閃緑岩や花崗岩で占められる中生代白亜紀前期の岩体が見られ、両者は宮古湾近辺で境界を接している。

遺跡が所在する宮古市津軽石は、山田町豊間根を源流とし、宮古湾へと注ぐ津軽石川の左岸に位置している。主に津軽石川やその支流の七田川・根井沢川などに開析された豊間根丘陵と呼ばれる丘陵地と、津軽石川沿いに樹枝上に発達した谷底・氾濫平野に分類され、ごく小規模ではあるが段丘や扇状地なども見られるようである。また、西には大笹山（612.2m）をはじめとした、標高400～600mの中規模山地や、それよりも低い標高の小規模山地が形成される。また宮古花崗岩が風化した、マサ土と呼ばれる層が見られる。その中でも遺跡の含まれる荷竹地区は、津軽石川の支流七田川沿いに谷底平野や段丘が形成され、また両岸に、丘陵地が広がる地形となっている。



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図



第3図 遺跡周辺の地形と調査範囲

当遺跡は七田川右岸の丘陵地上、標高46～60mの礫片を多く含む斜面地に位置し、現況は山林である。また、調査区の一部からマサ土が見られた。

2 歴史的環境

(1) 宮古市の遺跡

宮古市内には、平成27年度現在、岩手県教育委員会が作成した「岩手県遺跡情報検索システム」により、653遺跡が登録されている。全体の19%にあたる122遺跡は複数の時代にまたがる複合遺跡である。時代別にみると複合遺跡も含め、縄文時代477遺跡、弥生時代22遺跡、奈良・平安時代127遺跡、中世78遺跡、近世12遺跡で、縄文時代の遺構・遺物が見つかった遺跡は周知されている遺跡全体の半数を超え、次いで平安・奈良時代と中世の遺跡が多い傾向にある。

縄文時代は最も多くの遺跡数が存在しており、縄文時代早期から晩期まで様々な遺構・遺物が確認されている。早期では、小沢貝塚、宮古市指定史跡の磯鶏蝦夷森貝塚、八木沢野米遺跡、根井沢穴田Ⅳ遺跡（9）などで遺物が確認されている。前期以降遺跡数が増加し、中期で最盛期となり、上村貝塚、国指定史跡崎山貝塚などを代表とする集落遺跡が確認されている。後・晩期になると遺跡数が減少し、遺物の出土は認められるが集落を形成した遺跡の数は少ない。また、弥生時代も同様で上村貝塚で前期集落、木戸井内Ⅲ遺跡、金浜Ⅰ遺跡などで後期集落が確認されている程度である。

奈良・平安時代は、縄文期に次ぐ遺跡数が存在し、長根Ⅰ遺跡、島田Ⅱ遺跡、隠里Ⅲ遺跡、金浜Ⅰ遺跡などがある。特に、集落跡において鉄生産関連遺構が認められる例が多く、縄文期よりも標高の高い山奥に形成される遺跡も見受けられ、これらは鉄生産を行ったことが要因と考えられている。これまでの発掘調査により、9世紀以降に当地域で鉄生産が本格的に始まり、精錬から鉄製品の加工までの一連の生産が盛んに行われていたことが明らかとなっている。荷竹日影Ⅱ遺跡周辺地域でも、製鉄炉やそれに伴う遺物など鉄生産が行われた痕跡が認められている。

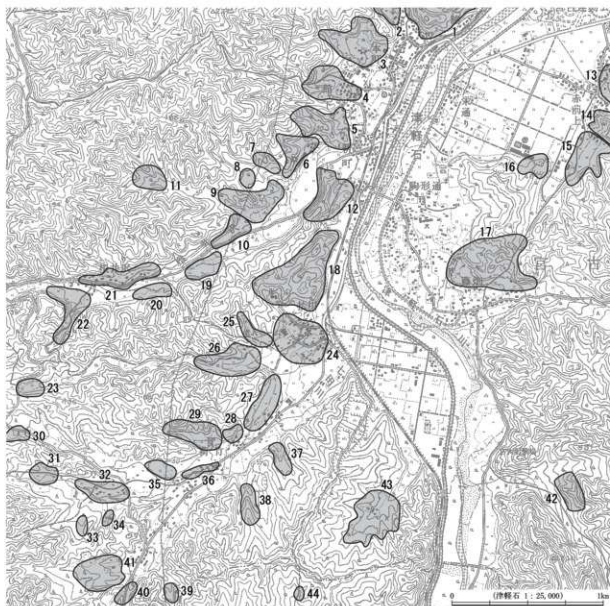
中世では、段丘の突端部に遺跡が形成される傾向が認められており、その多くが城館跡である。特に、宮古湾を囲むように多くの城館跡が存在し、赤前館跡（14）、山崎館跡（1）、高平館跡（12）、沼里館跡（5）、弘川館跡（18）等がある。また、鉄生産に関連する遺構・遺物が認められる遺跡も多く確認されている。

(2) 周辺の遺跡

本遺跡は、津軽石川左岸の豊間根丘陵上に位置している。津軽石川の支流のひとつである七田川沿いにあり、周辺には縄文時代から中近世にわたるまでの多様な遺跡が分布している。

宮古市の遺跡は、前述のように653遺跡が登録されているが、このうち荷竹日影Ⅱ遺跡が所在する津軽石地区には45箇所の遺跡が周知され、このうちの15遺跡が複数の時代にまたがる複合遺跡である。時代別にみると複合遺跡も含め、縄文時代27遺跡、弥生時代4遺跡、奈良・平安時代19遺跡、中世7遺跡となっている。

当地域の過去の発掘調査成果としては、宮古市教育委員会が平成2年に弘川Ⅰ遺跡（24）、平成15・16年に弘川館跡（18）、平成18年に荷竹日向Ⅳ遺跡（36）、当里蔵文化財センターが平成25年に弘川Ⅱ（25）・弘川Ⅲ遺跡（26）、津軽石大森遺跡（3）、平成26年に沼里遺跡（4）の調査をそれぞれ実施している。津軽石大森遺跡では、縄文時代と古代の堅穴住居跡37棟が見つかっており、このうち35棟が古代の住居跡で、古墳時代以降の地で大集落が形成されていたと考えられている。津軽石大森



第4図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	類別	時代
1	山崎館	城跡跡	中世
2	黒越1	散布地	縄文・古代
3	摩耶石大森	集落跡	縄文・古代・中世
4	沼原	集落跡	縄文・奈良
5	沼原館	城跡跡	中世
6	根井沢穴田Ⅰ	散布地	縄文・古代
7	根井沢穴田Ⅱ	散布地	縄文
8	根井沢穴田Ⅲ	散布地	縄文
9	根井沢穴田Ⅳ	散布地	縄文
10	根井沢穴田Ⅴ	散布地	縄文
11	根井沢寺・沢	散布地	古代
12	高平館	城跡跡	中世
13	中前寺	集落跡	縄文・平安
14	赤前館	城跡跡	中世
15	赤前1字子沢	散布地	縄文
16	久保田	散布地	縄文・古代
17	藤畑	集落跡	縄文・古代
18	弘川館（津軽石館）	城跡跡	中世
19	根井沢日影Ⅰ	散布地	縄文
20	根井沢日影Ⅱ	散布地	縄文
21	根井沢Ⅰ	野跡跡	縄文・弥生・平安
22	根井沢Ⅱ	散布地	縄文

番号	遺跡名	類別	時代
23	舊竹米山Ⅰ	散布地	
24	弘川Ⅰ	集落跡	縄文・奈良・中世
25	弘川Ⅱ	集落跡	縄文・古代
26	弘川Ⅲ	散布地	縄文・古代
27	舊竹日向Ⅰ	集落跡	縄文・弥生・古代・中世
28	舊竹日向Ⅱ	散布地	縄文・古代
29	舊竹日向Ⅲ	散布地	縄文・古代
30	舊竹米山Ⅴ	散布地	縄文
31	舊竹米山Ⅲ	散布地	縄文
32	舊竹米山Ⅰ	集落跡	縄文・弥生・古代
33	舊竹米山Ⅳ	散布地	
34	舊竹米山Ⅱ	散布地	
35	舊竹日向Ⅴ	散布地	縄文
36	舊竹日向Ⅳ	散布地	縄文・平安
37	舊竹日影Ⅰ	散布地	
38	舊竹日影Ⅱ	集落跡	弥生・古代
39	舊竹日影Ⅲ	散布地	古代
40	舊竹日影Ⅳ	散布地	
41	舊竹日影Ⅴ	散布地	古代
42	大跡	散布地	縄文
43	須野沢	散布地	縄文
44	石塚Ⅱ	野跡跡	不明

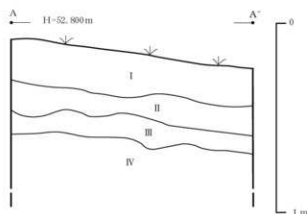
遺跡と隣接する沼里遺跡では、陥し穴や古代の竪穴住居跡5棟が確認されており、古墳時代末～奈良時代にかけての集落跡である。荷竹日影Ⅱ遺跡から北側約1.5kmにある弘川館跡では、遺跡西端の瑞雲寺の裏庭整備に伴い発掘調査を行った際に平安時代の竪穴住居跡や中世の墓跡などが確認され、墓跡からは人骨・銅銭・鉄釘・刀子などが出土している。次に弘川Ⅰ～Ⅲ遺跡について述べると、弘川Ⅰ遺跡では、縄文時代の陥し穴、奈良時代の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡が確認された。弘川Ⅱ遺跡では、古代の竪穴住居跡、中世の経塚、近世の墓塚が確認され、土師器や須恵器、古銭などが出土している。弘川Ⅲ遺跡では、縄文時代の陥し穴、古代の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡、古代と中世の鉄生産関連遺構などが確認されている。いずれの遺跡からも中世の遺構・遺物が見つかっており、同一段丘面に隣接することから、これら弘川Ⅰ～Ⅲ遺跡は12世紀～13世紀初頭にかけて存在した同一の集落の可能性が考えられる。また、本遺跡の北西側約0.4kmに位置する荷竹日向Ⅳ遺跡では、縄文時代早・前期の遺物包含層が認められ、縄文土器や古代の土師器・須恵器・鉄滓などが出土している。

以上のように、宮古湾から津軽石川沿いの周辺地域では縄文時代～中近世まで、多様な遺跡が存在していることが明らかとなっている。特に古代以降は鉄生産が盛んに行われるが、これは花崗岩地帯に起因して、原料である砂鉄を多く生産することができる地域であったためと考えられる。

3 基本層序

堆積状況の良い調査区東側のI B18bグリッドにある壁面に土層観察のためのトレンチを設置し、記録した。地形は北側が高く、南側が低い斜面地であるが、中央よりやや北側付近には、斜面に直交するように緩斜面帯があり、竪穴住居の多くが、この周辺で検出された。遺構はⅢ層の暗褐色シルト層より下層で検出された。

- I 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
木根多く含む 表土
- II 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
- III 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中
遺構検出面
- IV 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中
径1～3cmの礫3%含む 地山



第5図 基本土層

Ⅲ 野外調査と室内整理

1 野 外 調 査

(1) 野外調査の経緯

- 3月17日 現地確認。
- 4月16日 調査開始。
- 4月17日 人力による試掘および重機による表土除去を開始する。
- 5月7日 基準点設置業務委託。
- 6月15日 調査終了確認。
- 7月7日 航空写真撮影実施。
- 7月10日 調査終了。現場撤収。

(※協議・終了確認はいずれも委託者・岩手県教育委員会・埋文センターの3者による)

(2) グリッドの設定

平面直角座標第X系の $X = -48,600,000$ 、 $Y = 93,800,000$ を原点として、 100×100 mの大グリッドを設定し、これを20等分し、 5×5 mの小グリッドとしている。大グリッドの呼称は原点を起点に南方方向にⅠ、Ⅱ、Ⅲ・・・とローマ数字をあて、西から東方向へはA、B、C・・・と昇順するアルファベット大文字をあてて設定した。小グリッドの呼称は北から南方方向へ1～20のアラビア数字、西から東方向へa～tのアルファベット小文字をあて、これらの組み合わせで小グリッドを表し「IA1a」のように呼称した。

(3) 基準点の設定

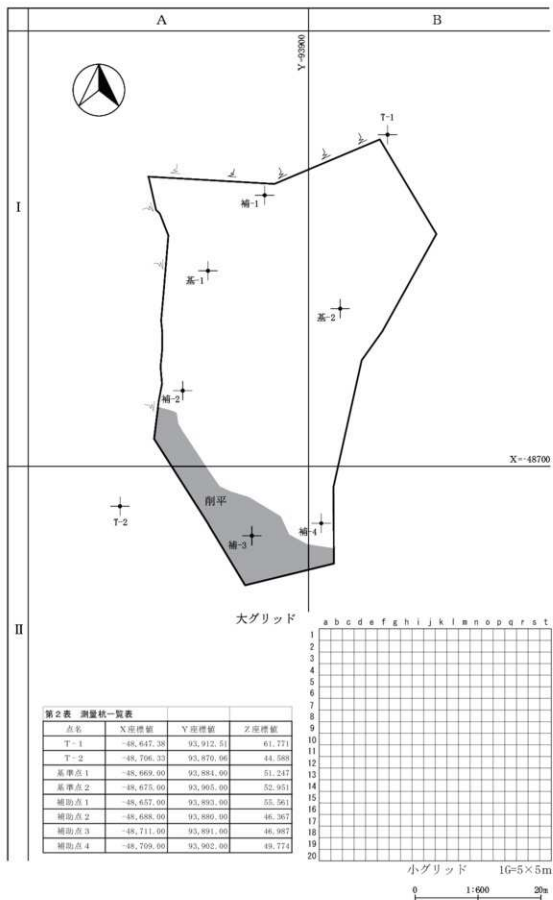
遺構の実測に利用するため、調査区内外に3級基準点および補助点の打設を株式会社鈴木測量設計に委託し、これをもとに調査を行った。座標値は世界測地系によるもので、標高は直接水準による値である。各杭の成果値は第2表(第6図内)のとおりである。

(4) 表土除去と遺構の検出

遺跡の調査に先立って、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による事前の試掘調査が実施されている。この試掘により調査対象区内の堆積状況や遺構検出レベルがおおよそ把握されていたため、それを踏まえた上で、重機による表土除去を実施した。その後は人力による遺構検出を行った。

(5) 遺構の精査と実測

調査で検出された遺構は以下の手順で調査を進めた。堅穴建物では4分法、土坑・焼成遺構は2分法で精査を行い、土層確認用の断面ベルトを残し、埋土の堆積状況の確認を行いながら掘り下げた。平面図作成(株式会社CUBICの遺構実測支援システムによる)後、セクションベルトを設け、断面確認→完掘の順で作業を行った。



第6図 グリッド配置図

(6) 写真撮影

調査記録用にデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 6D）1台、モノクロームフィルムカメラ（マミヤ645AFDⅢ）の1台を使用した。撮影にあたって、整理時の混乱を防ぐため撮影内容を記入した撮影カードを対象遺構撮影前に撮影している。その他、調査終了時に併せてセシナ機による航空写真撮影を実施した。

2 室内整理の手順と方法

(1) 作業経過

各遺跡の室内整理期間は前述の例言のとおりで、整理作業は遺物の接合・復元・実測図作成・図面合成・原稿執筆・各種観察表の作成等の作業を実施した。

(2) 遺物の整理

洗浄した遺物は注記作業→重量計測→接合・復元の順に作業を行い、その過程で本書に掲載する遺物を抽出し、それらの実測図を作成し、トレースを行った。

(3) 掲載図

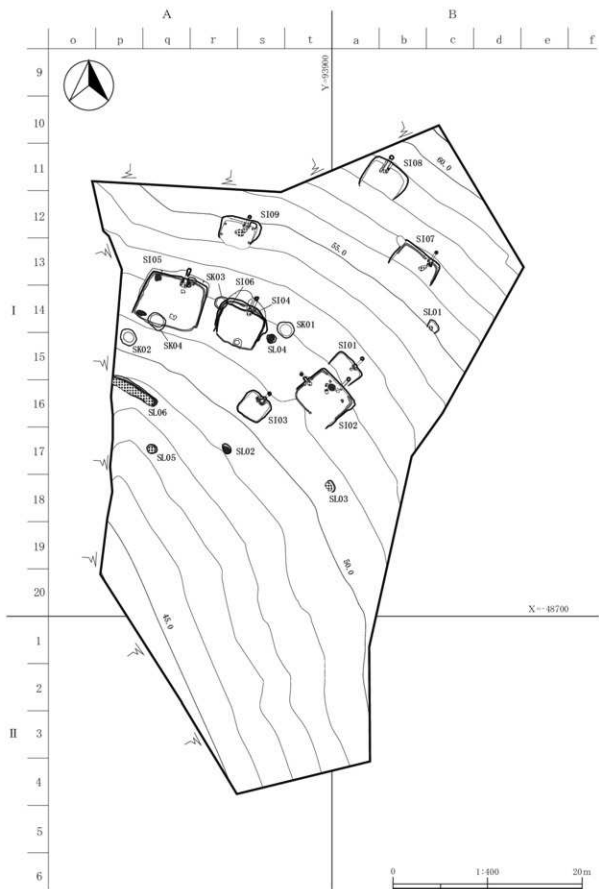
遺物実測図の掲載縮尺は土器・礫石器が1/3、土製品・鉄製品・剥片石器1/2とした。実測図において須恵器の断面は黒色に塗りつぶし、土師器の内面黒色処理は黒色トーンを内面に使用して表した。

遺構図面は、野外調査で電子平板（株式会社CUBICの遺構実測支援システム）で作成した実測原因をコンピューター上で合成・修正・図版組を行った。掲載した図の縮尺は、規模により異なるものもあることから各図版にスケールを付した。また、遺構図版内におけるスクリーントーンによる表現には、使用箇所に用例を明記した。使用した遺構の名称は以下の通りである。

S I…竪穴住居跡、S K…土坑、S L…焼成遺構、P…柱穴状土坑

(4) 写真の整理

掲載している遺物写真は、当センター写真技師によりデジタルカメラで撮影した。撮影はRAWモードで撮影し、印刷段階でJPEGに変換している。



第7図 遺構配置図

Ⅳ 検出遺構

1 竪穴住居跡 (S I 01～09)

S I 01 竪穴住居跡 (第8・9図、写真図版3・4)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央よりやや東側のI B 15 a グリッド付近に位置し、Ⅲ層で検出した。遺構の南西半分が削平されている。S I 02のカマド煙出部(古)と重複し、これを切る。

<平面形・規模> 平面形は方形基調と推定される。規模は残存する北西-南東間が3.46m、削平された北東-南西間が1.95mの残存値で、深さは最も残存する北東壁上部から床面まで0.45mである。

<壁・床面> 壁は直立気味～外傾気味に立ち上がり、床は細かい凸凹や小礫が混入しているが、全体的には平坦である。2～10cmの厚さで貼床が施されている。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、上位が黒褐色シルトで中～下位の大半が明黄褐色シルトや礫が混入する暗褐色シルトである。壁溝以外の床には黄褐色シルトを含む暗褐色シルト主体の貼床が2～9cmの厚さで施されている。

<カマド> 北東壁の中央より南東側に構築され、煙道部は列り抜き式で軸方向はW-42°-Nを向く。煙道部は壁面を列り抜き、21°傾斜して下り、長さ0.84(斜距離1.01m)、最大幅32cmで煙出部へと繋がる。煙出部は開口部径31×31cmで周辺や埋土には10～15cmほどの礫が多く混入・出土している。開口部から底面までの深さは1.02mで底面から開口部に向かってやや外傾する。カマド構築土には明黄褐色シルトを含む暗褐色シルトを主体とし、袖部の芯材には礫を据えて構築されている。また、袖部間には天井部に設置・使用されていた可能性のある礫も出土している。焼成面の焼土範囲は29×23cmで、袖部からやや離れた位置にある。

<遺物> なし。

<時期> 出土した遺物がなため詳細時期は不明であるが、重複するS I 02との関係から10世紀前半代頃と想定される。

S I 02 竪穴住居跡 (第10～12図、写真図版5・6)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央よりやや東側のI A 16 t・I B 16 a グリッド付近に跨がって位置し、Ⅲ層で検出した。遺構の南西半分が削平されている。

<平面形・規模> 平面形は方形基調と推定される。規模は残存する北西-南東間が5.15m、削平された北東-南西間が4.51mの残存値で、深さは最も残存する北東壁上部から床面まで0.26mである。

<壁・床面> 壁は外傾して立ち上がり、床は細かい凸凹や小礫が混入しているが、全体的には平坦である。床面には北東壁から約25cmの幅で貼床が施されている。それ以外にも硬化は認められるが、貼床を施した痕跡は明確ではない。また、北西壁～南西壁・南東壁に沿って幅12～26cmの溝が巡らされている。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、大半が礫が混入する黒褐色シルト壁際の一部に暗褐色シルトが堆積する。

<カマド> カマドは2基、北西壁・北東壁のそれぞれ中央付近に設けられているが、使用時期には差があり、北東壁に設けられたカマドの方が古く、煙出部がS I 01と重複し、これに切られている。

北西壁にあるカマドは煙道部が列り抜き式で軸方向はW-52°-Nを向く。煙道部は燃焼部より14

cmほど高い壁面にはほぼ水平の角度で掘られ、長さ1.13m、最大幅32cmで煙出部へと繋がる。煙出部の開口部径は26×25cmで底面までの深さは18cmを測る。煙出開口部中心点と煙道部軸には約16°の差異が生じていることから、煙道部を掘削後、煙出部を掘り下げた可能性が考えられる。カマドの構築土は明黄褐色粘土質シルトを含む黒褐色シルトを主体とし、東側袖部の芯材には礫を据えて構築されている。袖部は西側袖部がやや長く、ハの字状に開き、袖部間の距離は先端部で54cmを測る。焼成面は東袖部側に近く、径53×42cmの範囲で楕円状に広がる。焼土の層厚は最大で5cmで、層中に5～10cmの礫が多く含まれる。北東壁にあるカマドは煙道部が削り抜き式で軸方向はE-47°-Nを向く。煙道部は燃焼部より8cmほど高い壁面を削り抜いてトンネル状に9°傾斜して下る角度で掘削され、長さ86cm、高さ26～29cm、最大幅32cmで煙出部へと繋がる。煙出部の開口部径は30×29cm、底面まではほぼ垂直に掘削され、深さは71cmを測る。埋土に径5～10cmほどの礫が多く混入している。カマド本体は移築した際に掘削され、煙道部の延長線上に位置する焼成痕以外は残存しない。焼成面は径45×31cmの範囲で楕円状に広がり、焼土層厚は最大で2cmを測る。

<炭化物> 北東壁際の中央部付近の径80×70cmの範囲に炭化物の広がりが見られ、その南側からは鉄滓（主に鍛冶滓）がまとまって出土した。

<遺物> 土師器2021.1g、須恵器27.8g、鉄滓1872.8g出土した。このうち土師器壺3点（1～3）、鉄滓7点（176・210・212～214・271・278）を図化・掲載した。鉄滓210～246（表掲載含む）は鍛冶滓で炭化物範囲の側の床面から集中して出土した。

<時期> 重複関係から北東壁にカマドを設置していた時期はS I 01より古いが、北西壁にカマドを設置していた時期については出土した遺物の特徴から9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。

S I 03 竪穴住居跡（第13・14図、写真図版7・8）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のI A 16sグリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 平面形は東西方向がやや長いが正方形に近い形態を呈する。規模は北西-南東間2.98m、北東-南西間2.80mで、深さは最も残存する北東壁上部から床面まで0.67mである。

<壁・床面> 壁は外傾して立ち上がり、床は細かい凸凹や小礫が混入しているが、全体的には平坦である。床面全域に2～6cmの厚さで貼床が施されている。壁溝はない。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、全体に上位が黒褐色シルト、中位以下は暗褐色シルトが堆積するが、遺構東側のみ黄褐色シルト層である。また、層全体に長さ5～10cmの礫が多く混入している。

<カマド> カマドは北東壁の中央部より僅かに東側に設けられ、煙道部は削り抜き式で軸方向はE-47°-Nを向く。煙道部は住居壁面を削り抜いてトンネル状に9°傾斜して下る角度で掘削され、長さ56cm、最大幅33cmで煙出部へと繋がる。煙出部は開口部径33×27cmで底面まで垂直に掘削され、深さは77cmを測る。埋土には大きさ12～22cmほどの大礫が多く混入している。カマドの構築土は黄褐色粘土質シルトを含む暗褐色シルトを主体とし、袖部は芯材に礫を据えて構築されている。また、カマドを構築する際に使用されたと考えられる礫が多数、周辺に散在していた。規模は84×84cmで袖部先端は僅かにハの字状に開き、両袖先端部間の距離は37cmを測る。焼成面は東袖部側に寄り、径29×25cmの範囲に広がり、焼土の層厚は最大4cmである。

<遺物> なし。

<時期> 遺物が出土していないことから詳細は不明である。

S I 04 竪穴住居跡 (第15～17図、写真図版9・10)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のI A14sグリッド付近に位置し、IV層で検出した。遺構の南西側が削平されている。S I 06・S K03と重複し、これらより新しい。

<平面形・規模> 遺構の南西が削平されているが、平面形は方形基調と推定される。規模は北西-南東間が5.34m、削平された北東-南西間が4.66mの残存値である。

<壁・床面> 壁は直立ないし、外傾して立ち上がり、床は一部凹凸はあるが全体的に平坦である。カマド以外のほぼ全ての壁に沿って幅7～20cmの溝が巡らされ、その内側の床面全域に5～16cmの厚さで貼床が施されている。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、全体に上位が黒褐色シルト、中位以下は暗褐色シルトであるが、褐色・黄褐色シルトが混在している。層全体に5～10cmの礫が多く混入している。

<カマド> カマドは北東壁の中央～やや東寄りに設けられ、煙道部は刎り抜き式で軸方向はE-67°-Nを向く。煙道部は住居壁面をトンネル状に刎り抜き、天井部分はおおよそ水平であるが、底面は6°傾斜して下る角度で掘削され、長さ1.02m、最大幅31cm、高さは最小で15cm、煙出部との結合部付近では25cmと最大に広がる。煙出部は開口部径37×30cmで底面まで垂直に掘削され、深さは93cmを測る。埋土には大きさ6～12cmほどの礫が混入している。カマドの構築土は褐色シルトを主体とし、袖部は芯材に礫を使用し、これを覆うようにして作られている。また、構築材として使用されたと考えられる礫が多数、周辺に散在していた。規模は73×64cmで両袖の先端部がハの字状に開き、袖先端部間の距離は44cmを測る。焼成面は東袖部側にやや近く、径52×43cmの範囲で広がり、焼土の層厚は最大4cmである。燃焼部焼土の北東端には支脚として羽口が立った状態で床面に埋め込まれていた。

<遺物> 遺構内から土師器1890g、須恵器284.3g、鉄滓1118.1g等が出土した。カマドの支脚に羽口が1点(4)、他に鉄製品7点(5～11)、弥生土器2点(12・13)が埋土から出土した。

<時期> 重複関係にあるS I 06より、新しい時期のため10世紀前半以降と考えられる。

S I 05 竪穴住居跡 (第18～20図、写真図版11・12)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区西側のI A14qグリッド付近に位置し、IV層で検出した。遺構の南西半分が削平されている。S K04と重複し、S K04より新しい。

<平面形・規模> 遺構の南端が削平されているが、平面形は方形基調と推定される。規模は、残存する北西-南東間が6.93m、削平された北東-南西間が6.24mの残存値で、深さは最も残存する北東壁上部から床面まで1.14mである。

<壁・床面> 壁は直立ないし外傾して立ち上がり、床は一部凹凸はあるが全体的に平坦である。カマド以外のほぼ全ての壁に沿って幅10～25cmの溝が巡らされ、その内側の床面全域に5～32cmの厚さで貼床が施されている。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、全体に上位が黒褐色シルト、中位以下は黄褐色シルトの堆積を呈するが、褐色・浅黄橙色シルトが混在している。層全体に5～20cmの礫が多く混入している。

<カマド> カマドは北東壁の中央やや東寄りに構築され、煙道部は刎り抜き式で軸方向はE-69°-Nを向く。煙道部は、壁面をトンネル状に刎り抜き、9°傾斜して下り、長さ0.97mのところ煙出部に結合する。最大幅38cm、高さは壁面で21cmを測り、煙出部付近で33cmと広がっている。煙出部は、開口部径36×35cmで底面まで約6°北東側に傾いて掘削され、深さは1.30mを測る。埋土には2～3mmの炭化物が混入している。カマドの袖部には芯材として礫を使用し、これを褐色～黄褐色シルトで覆うようにして構築されている。また、カマドを構築する際に使用されたと考えられる礫

が多数周辺に散在していた。規模は98×82cmで袖の先端部がハの字状に開く。両袖先端部間の距離は57cmを測る。燃焼部の焼成範囲は60×55cmで、焼土の層厚は最大5cmである。

<土坑> カマド脇の北東壁を掘り込み、規模は開口部径94×50cm、深さは31cmを測る。

<遺物> 埋土から土師器5470.6g、須恵器485.0g、鉄滓6319.3g等が出土した。このうち、土器7点(15・19・29・30)、羽口1点(20)、石器2点(27・28)、金属製品6点(21～26)、鉄滓5点(70・96・249・250・272)を掲載した。このうち、床面から出土したのは土師器甕(15)と鉄製品(21)のみで、他は埋土中に含まれていたものである。

<時期> 出土した遺物の特徴から、9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。

S I 06 竪穴住居跡(第21・22図、写真図版13・14)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のI A14sグリッド付近に位置し、IV層で検出した。遺構の南西半分が削平されている。S I 04・S K03と重複し、これらより古い。

<平面形・規模> 平面形は方形基調と推定される。規模は残存する北西-南東間が4.73m、削平された北東-南西間が3.90mの残存値で、深さは最大で15cmである。

<壁・床面> 壁は外傾して立ち上がり、床は細かい凹凸や小礫が混入しているが、全体的には平坦である。床面全体に厚さ最大15cmで貼床が施されている。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、大半が礫の混入する黒褐色シルトを主体とし、壁際に褐色シルトが多く堆積する。

<カマド> カマド北東壁中央に設けられている。袖部をはじめとするカマド主体部はS I 04構築時に削平されており、煙道部と燃焼部のみを確認した。煙道部は削り抜き式で軸方向はE-68°-Nを向く。煙道部は長さ0.87m、最大幅39cmで燃焼部より壁をトンネル状に削り抜いて掘削され、13°の傾斜で下り、49(水平値)cmのところで8°上がって煙出部へと繋がることから、煙出→煙道部の順で掘削したと考えられる。煙出部の開口部径は35×29cmで底面までの深さは67cm、焼成面は壁面より25cm離れた位置に先端があり、径39×28cmの範囲で楕円状に広がる。焼土の層厚は最大で7cmである。

<焼土> 床面中央付近にの径33×27cmの範囲に広がる。焼土の層厚は最大2cmを測る。

<土坑> 床面の南側に位置し、規模は開口部径89×86cm、底部径50×44cm、深さ65cmである。壁は底面から外傾して立ち上がり、開口部付近はやや開いて立ち上がる。

<遺物> 埋土から土師器290.4g、鉄滓558.4gが出土した。このうち、貼床から出土した土師器甕1点(31)、他に床面から出土した金属製品2点(35・36)を図化・掲載した。他に椀形滓1点(247)が埋土から出土した。

<時期> 出土した遺物の特徴から、9世紀後半～10世紀前半頃と想定される。

S I 07 竪穴住居跡(第23・24図、写真図版15・16)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区北側のI B13b～cグリッド付近に跨って位置し、IV層で検出した。遺構の南西側が削平されている。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 遺構の南西側が削平されているが、形状は方形基調と推定される。規模は残存する北西-南東間が4.87m、削平された北東-南西間で3.18mの残存値で、深さは最も残存する北東壁上部から床面まで87cmを測る。

<壁・床面> 壁は北西壁の一部を攪乱により消失するが、外傾して立ち上がる。床面は細かい凹凸や小礫が混入しているが全体的に平坦である。また、カマド以外のほぼ全ての壁に沿って幅13～21cm

の壁溝が巡らされている。貼床は確認できなかった。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、北東壁側の上位に暗褐色シルト層があり、それ以下ではいぶい黄褐色シルト層が主体で、壁溝付近のみ黒褐色シルトが堆積する。全体に15～25cmの礫が混入している。

<カマド> カマドは北東壁東寄りに設けられ、煙道は削り抜き式で軸方向はE-53°-Nを向く。煙道部は壁面をトンネル状に削り抜き、壁面から傾斜18°の角度で下り、61cmのところで水平となり、長さ84cmで煙出部と繋がる。最大幅は29cm、高さは壁面で38cm、煙出部付近で32cmと狭まっている。煙出部は、開口部径26×23cmで底面まで垂直に掘削され、深さは煙道天井部との結合地点付近で約77cm、煙道部底面で108cmを測る。カマドは、いぶい黄褐色シルトを主体とし、袖部の芯材には礫を据えて構築されている。左袖部は先端部が残存しないが、カマドの規模は約77×65cmで袖の先端部付近に焼成面があり、範囲は34×33cm、焼土の層厚は最大で6cmを測る。

<遺物> 埋土から土師器1795.5g、鉄滓19425gが出土した。このうち、土師器甕1点(34)、鉄滓2点(104・218)、他に床面から出土した刀子1点(38)を図化・掲載した。

<時期> 出土した遺物の特徴から、9世紀末～10世紀前半頃と想定される。

S I 08 竪穴住居跡 (第25・26図、写真図版17・18)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区北側のIA11a・IA11bグリッド付近に位置し、IV層で検出した。遺構の南西側が削平されている。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 遺構の南西端が削平を受けているが、形状は方形基調と推定される。規模は残存する北西-南東間で4.58m、削平された北東-南西間で3.34mの残存値で、深さは最も残存する北東壁上部から床面まで1.01mである。

<壁・床面> 壁は外傾して立ち上がる。床面は、細かい凹凸や小礫が混入するが全体的には平坦である。また、床面全域に4～15cmの厚さで貼床が施されている。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、全体に上位は黒褐色シルト、中位以下はいぶい黄褐色シルトを主体とする。層全体に8～14cmの礫が混入している。

<カマド> カマドは北東壁の中央より北西寄りに設けられ、煙道は削り抜き式で軸方向はE-60°-Nを向き、燃焼部より16cmほど高い壁面をトンネル状に削り抜き、ほぼ水平な角度で掘削され、長さ0.46m、最大幅40cm、高さは壁面で26cm、煙出部付近で20cmと狭まっている。煙出部は、開口部径41×36cmで底面まで垂直に掘削され、深さは91cmを測る。カマドは明黄褐色シルトを主体とし、袖部の芯材に礫を使用し、礫を据えて構築されている。規模は151×81cmで袖部間の距離は60cm前後でほぼ平行である。燃焼部の焼成範囲は34×26cmで、焼土の層厚は最大で4cmを測る。

<時期> 遺物が出土していないことから時期の詳細は不明である。

S I 09 竪穴住居跡 (第27～29図、写真図版19・20)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区北側のIA12sグリッド付近に位置し、III層で検出した。遺構の南側が削平されている。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 遺構南端が削平を受けているが、方形基調と推定される。規模は東西間3.80m、削平された南北間2.82mの残存値で、深さは最も残存する北壁上部から床面まで0.8mを測る。

<壁・床面> 壁は外傾しないし、直立気味に立ち上がり、北壁に設けられたカマドの東側に、壁を掘り込んだピットが存在する。床面は、細かい凹凸や小礫が混入するが、全体的に平坦である。床面全

域に2～21cmの厚さで貼床が施されている。また床面壁際で柱穴4基を確認した。

〈埋土〉 埋土は自然堆積を呈する。全体に上位が明黄褐色シルト、中位がにぶい黄褐色シルトで、下位に黒色、黒褐色、暗褐色、黄褐色シルトが混在する。層全体に7～23cmの礫が混入する。

〈カマド〉 カマドは北壁東寄りに設けられ、煙道は刎り抜き式で軸方向はE-71°-Nを向く。煙道部は、壁面を刎り抜きはほぼ水平な角度で掘削され、長さ65cm、最大幅33cm、高さは壁面で20cm、煙出部付近で29cmと広がっている。煙出部は、開口部径31×30cmで底面に向かって垂直に掘削され、深さは96cmを測る。カマド構築土は、黄褐色シルトを主体とし、袖部の芯材には礫を据えて構築されている。規模は、60×74cmで袖部は平行で先端部がハの字状に開き、袖先端部間距離は47cmである。焼成面の焼土範囲は49×45cmで、焼土の層厚は最大8cmを測る。

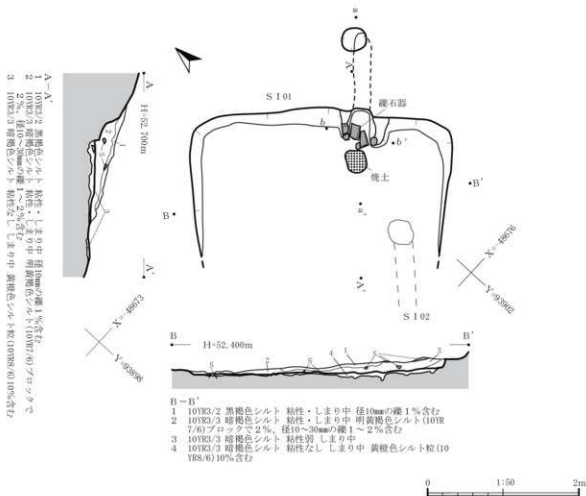
〈焼土〉 カマド燃焼部の南西で1基検出した。焼成範囲は96×72cmで、焼土の厚さは7cmである。焼成面がマウンド状にやや高まる。

〈土坑〉 カマド脇の北東壁を掘り込み、規模は開口部径78×44cm、深さは54cmを測る。

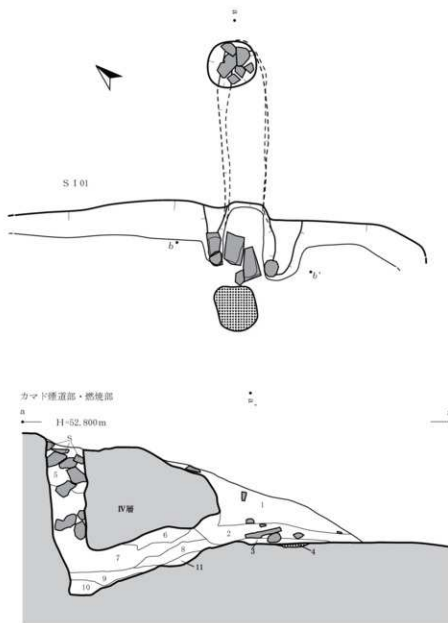
〈柱穴〉 4基検出した。規模は18～22cm、深さは14～28cmでいずれも小規模である。柱間距離はP1-P2=1.16m、P3-P4=1.49m、P1-P3=2.96m、P2-P4=3.05mを測る。柱痕跡は確認されていない。

〈遺物〉 埋土から土師器103.7g、鉄滓2162.4gが出土し、鉄滓1点(262)を図化・掲載した。土器は小片のため図化・掲載は行っていない。

〈時期〉 時期を特定しうる遺物が出土していないため詳細は不明である。

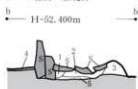


第8図 S101 竪穴住居跡1



- a-a'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/6)1~2%、径2~5cmの礫2%含む
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/6)1%未満、径2~5cmの礫5~7%含む
 - 3 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 褐色シルト(10YR4/6)5%含む
 - 4 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり強 (焼成面)
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR4/6 褐色シルト50%混合 粘性中 しまりなし
 - 6 10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR4/6 褐色シルト50%混合 粘性中 しまりなし(煙道天井崩落土)
 - 7 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 褐色シルト(10YR4/6)5~7%含む
 - 8 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/6)3~5%含む
 - 9 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)10~15%含む
 - 10 10YR2/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)1%含む
 - 11 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中

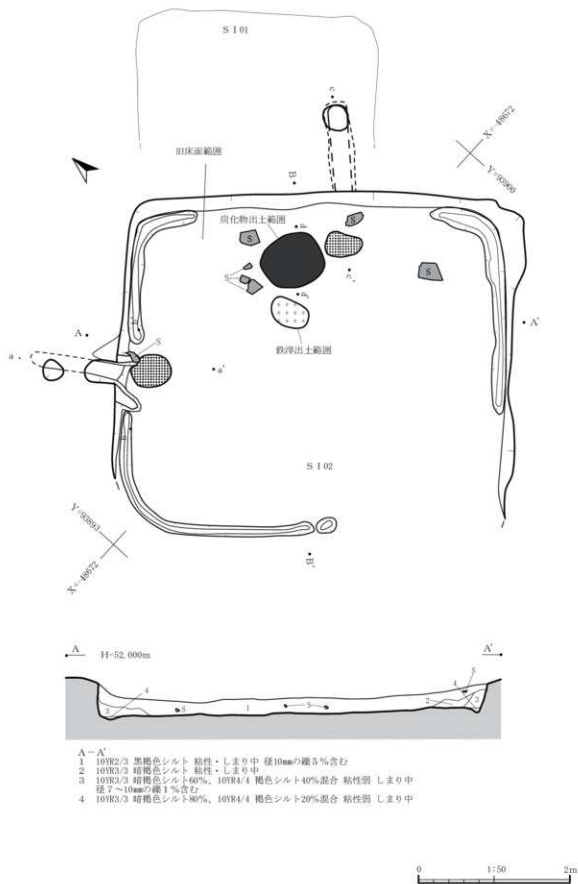
カマド袖部・燃焼部



- b-b'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 赤褐色焼土(5YR4/8)ブロックで5~7%含む
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 褐色シルト(10YR4/6)5%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/3)1~2%含む
 - 4 10YR3/4 暗褐色シルト80%、10YR5/6 黄褐色シルト20%混合 粘性弱 しまり強 竪穴居跡床
 - 5 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 炭化物3%含む

0 1:25 1m

第9図 S101 竪穴住居跡2



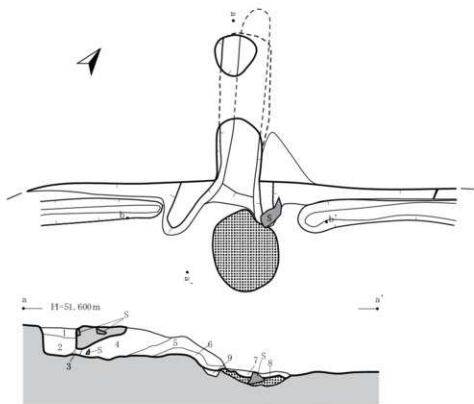
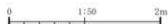
第10図 S102 壁穴住居跡1



B—B'

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/4)30%含む
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径10mmの礫5%含む
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
- 4 10YR2/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径3～5cmの礫1～2%含む
- 5 炭化物層
- 6 10YR4/4 褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%混合 粘性なし しまり中 貼床

* 1層に崩落土(IV層由来)多く混入



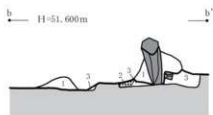
a—a'

H-51.600m

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 径1～2cmの礫5%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径5mm)1%含む
- 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり強 IV層崩落土
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径10mm)3～5%含む
- 5 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)10%含む
- 6 10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR5/6 黄褐色シルト50%混合 粘性弱 しまり中 明赤褐色焼土粒(5YR5/6 径2mm)1%含む
- 7 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 カマド天井崩落土 明赤褐色焼土(5YR5/6)20～25%含む
- 8 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまり強 焼成面
- 9 10YR4/4 褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%混合 粘性なし しまり中 貼床

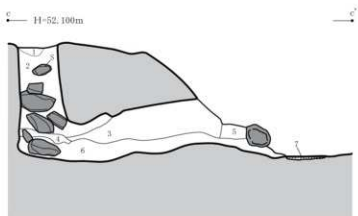


第11図 S I 02 竪穴住居跡2



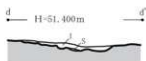
b-b'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色粘土質シルト(10YR7/6)10~15%含む
- 2 5YR4/6 赤褐色底土 粘性なし しまり強 焼成面
- 3 10YR4/4 褐色シルト60%, 10YR6/6 明黄褐色シルト40%混合 粘性なし しまり中 陥床



c-c'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)20%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径15~20cmの礎多量含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
- 4 10YR7/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中
- 5 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR3/2)3%含む
- 6 10YR2/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
- 7 5YR4/8 赤褐色底土 粘性なし しまり強 (焼成面)



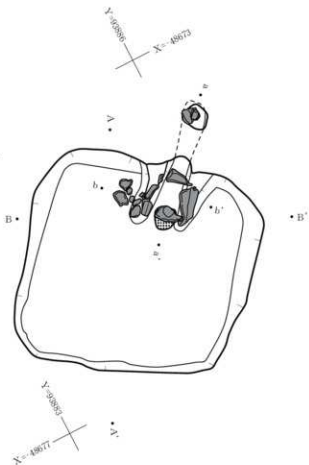
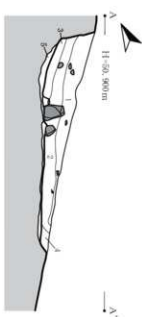
d-d'

- 1 10YR2/1 黒色炭化物層 粘性なし しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)3~5%含む



第12図 S | 02 壁穴住居跡3

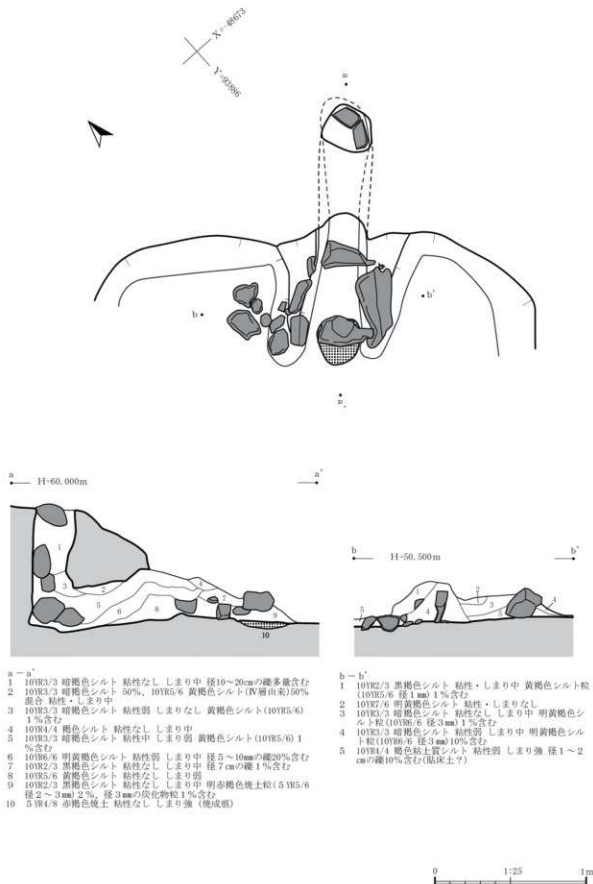
- A-A'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径7mmの炭化物1%未満、径2~3cmの礫3~5%含む
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径1mm未満の細粒状)、径3~5cmの礫1~2%含む
 - 3 10Y5/6 黄褐色シルト 粘性弱・しまり強 径3~10cmの礫を5%含む
 - 4 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱・しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径1mm未満の細粒状)で1~2%含む
 - 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)5~7%含む



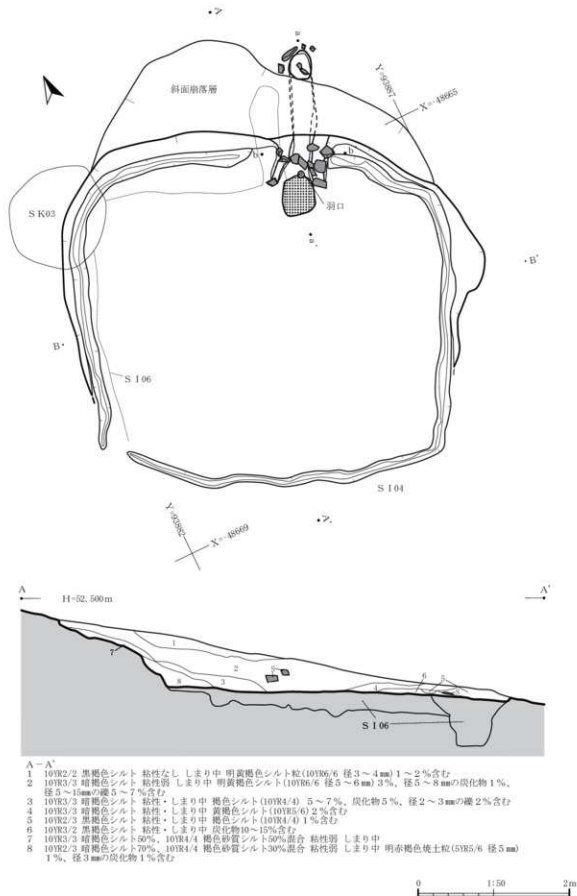
- B-B'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径7mmの炭化物1%未満、径2~3cmの礫3~5%含む
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径1mm未満の細粒状)、径3~5cmの礫1~2%含む
 - 3 10Y5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強 径3~10cmの礫を5%含む
 - 4 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱・しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径1mm未満の細粒状)で1~2%含む
 - 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)5~7%含む



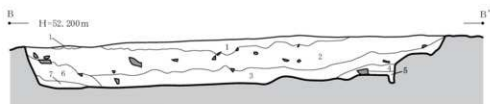
第13図 S I 03 竪穴住居跡1



第14図 S103壁穴住居跡2

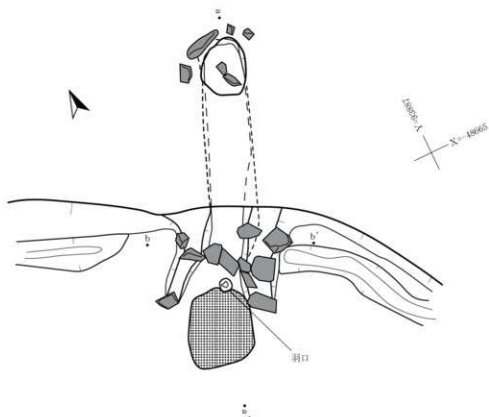
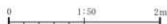


第15図 S104竪穴住居跡1

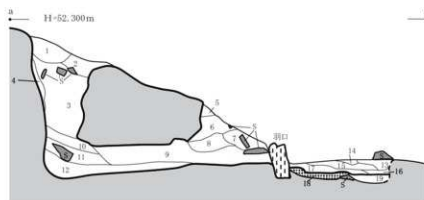


B-B'

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径3~4mm) 1~2%含む
 2 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6 径3~6mm)3%, 径5~8mmの炭化物1%, 径5~15mmの礫5~7%含む
 3 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 5~7%, 炭化物5%, 径2~3mmの礫2%含む
 4 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 3%含む
 5 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 3~5%含む
 6 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 3~5%含む
 7 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 5%, 炭化物10%含む

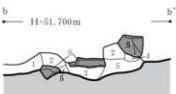


第16図 S104 壁穴住居跡2



a - a'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト40%混合 粘性中 しまり強
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/4)1%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/6)3%含む
- 4 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中(硬弱落土?)
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
- 6 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)1%未調査含む
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 8 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)10~15%含む
- 9 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/6)5~10%全体に含む
- 10 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまりなし 褐色シルト(10YR4/6)7%含む
- 11 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/6)7%含む
- 12 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/6)5%含む
- 13 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
- 14 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 15 10YR2/1 黒色 炭化物層 粘性なし しまり中
- 16 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
- 17 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 18 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり強
- 19 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中



b - b'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 灰白色砂質シルト(10YR8/2)1%含む S106の導流部埋土
- 2 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 粘土
- 3 10YR3/2 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)5~7%、径2~3mmの炭化物1~2%含む
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
- 5 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)5~7%含む 粘床

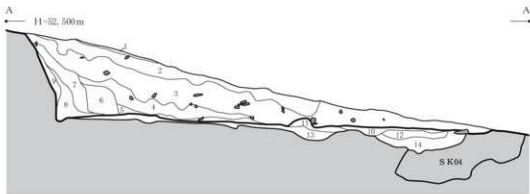
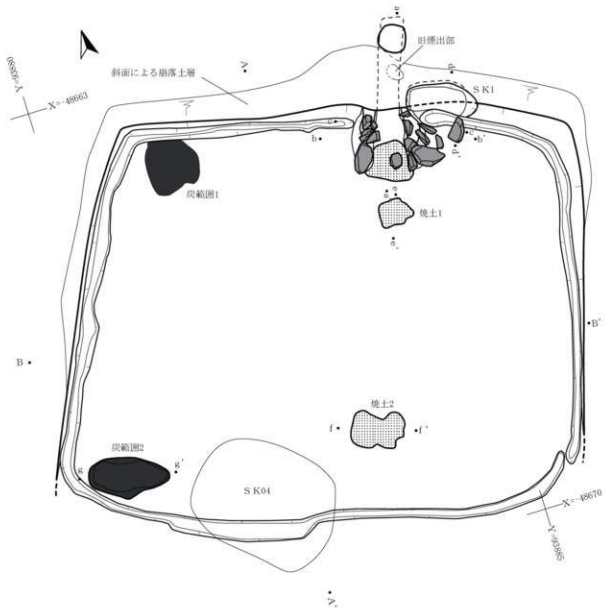
S105

A - A'

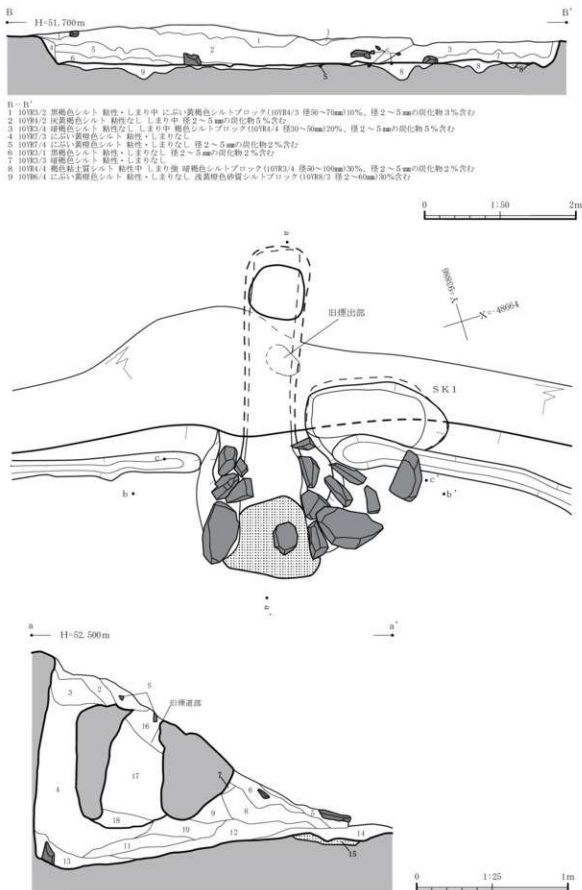
- 1 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性・しまり中 表土
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 に近い黄褐色シルトブロック(10YR4/3 径50~70mm)10%、径2~5mmの炭化物3%含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性なし しまり中 径2~5mmの炭化物3%、雑多物含む
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性なし しまり中 に近い黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径30~50mm)30%、径2~10mmの炭化物3%含む
- 5 2.5Y/2 暗灰黄色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土質シルトブロック(2.5Y/5 径30~70mm)20%、径2~3mmの炭化物3%含む
- 6 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性・しまり中 径5~7mmの炭化物2%含む
- 7 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 に近い黄褐色シルトブロック(10YR6/4 径50~70mm)5%、径2~3mmの炭化物2%含む
- 8 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり強 径2~5mmの炭化物5%含む
- 9 10YR7/4 に近い黄褐色シルト 粘性・しまりなし
- 10 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性・しまりなし 浅黄褐色砂質シルトブロック(10YR8/3 径2~10mm)3%、径2~3mmの炭化物1%含む
- 11 10YR7/4 に近い黄褐色シルト 粘性・しまりなし 径2~5mmの炭化物2%含む
- 12 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまりなし 浅黄褐色砂質シルトブロック(10YR8/3 径2~50mm)50%、径2~4mmの炭化物1%含む
- 13 10YR6/4 に近い黄褐色シルト 粘性・しまりなし 浅黄褐色砂質シルトブロック(10YR8/3 径2~60mm)30%含む
- 14 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性・しまり中 浅黄褐色砂質シルトブロック(10YR8/3 径2~5mm)4%、黄褐色シルトブロック(10YR5.6 径5~10mm)3%、径2~3mmの炭化物2%含む

0 1:25 1m

第17図 S104 堅穴住居跡3

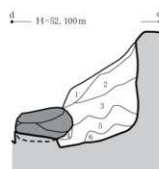


第18図 S I 05 竪穴住居跡1



第19図 S I 05 竪穴住居跡2

- a-a'
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりなし にぶい黄褐色シルトブロック (10YR6/3 径10~50mm) 50%、径2~3mmの炭化物3%含む
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまりなし にぶい黄褐色シルトブロック (10YR6/3 径5~50mm) 60%、径2~3mmの炭化物2%含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし にぶい黄褐色シルトブロック (10YR6/3 径5~20mm) 20%、径2~3mmの炭化物2%含む
 - 4 10YR2/2 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 径3~10mmの炭化物3%含む
 - 5 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 にぶい黄褐色シルトブロック (10YR7/4 径2~3mm) 5%含む
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまりなし 褐色シルトブロック (10YR4/4 径20~30mm) 2%、径2~3mmの炭化物1%含む
 - 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまりなし 径2~3mmの炭化物2%含む
 - 8 10YR5/3 暗褐色シルト 粘性中 しまりなし 径2~3mmの炭化物2%含む
 - 9 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりなし にぶい黄褐色シルトブロック (10YR6/3 径10~50mm) 10%含む
 - 10 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 径2~5mmの炭化物3%含む
 - 11 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりなし 径2~3mmの炭化物2%含む
 - 12 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 黒褐色シルトブロック (10YR2/2 径10~30mm) 30%、径2~3mmの炭化物3%含む
 - 13 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 径2~3mmの炭化物2%含む
 - 14 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまりなし 暗褐色シルトブロック (10YR3/4 径1~2mm) 3%、径1~2mmの炭化物2%含む
 - 15 10YR6/6 褐色焼土 粘性・しまり弱 径2~5mmの炭化物3%含む
 - 16 10YR5/5 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりなし 径2~3mmの炭化物2%含む 奈良遷道部
 - 17 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまりなし 径2~5mmの炭化物2%含む 奈良遷道部
 - 18 10YR3/2 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 褐色シルトブロック (10YR4/6 径10~30mm) 2%、径2~3mmの炭化物2%含む 奈良遷道部

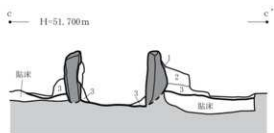


- b-b'
- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 にぶい黄褐色シルトブロック (10YR7/4 径2~3mm) 5%含む
 - 2 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまりなし 褐色シルトブロック (10YR4/4 径20~30mm) 2%、径2~3mmの炭化物1%含む
 - 4 10YR1/2 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまりなし 暗褐色シルトブロック (10YR4/4 径1~2mm) 3%、径1~2mmの炭化物2%含む
 - 5 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまりなし にぶい黄褐色シルトブロック (10YR6/4 径1~2mm) 2%含む
 - 6 7.5YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 褐色シルトブロック (7.5YR4/6 径2~3mm) 2%、径1~2mmの炭化物1%含む
 - 7 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまりなし
 - 8 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまりなし 径2~20mmの炭化物3%含む
 - 9 10YR4/4 褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルトブロック (10YR7/6 径10~20mm) 20%、径2~5mmの炭化物5%含む

SK1

d-d'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまりなし 褐色シルトブロック (10YR4/4 径20~30mm) 2%、径2~3mmの炭化物1%含む
- 2 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまりなし
- 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまりなし
- 4 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性・しまり中
- 5 7.5YR5/6 明褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径1~2mmの炭化物1%含む
- 6 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径2~3mmの炭化物1%含む



c-c'

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中
- 2 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性・しまり中
- 3 10YR2/2 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 褐色粘土質シルトブロック (10YR4/4 径10~30mm) 2%、赤褐色シルトブロック (5YR4/6 径10~20mm) 2%、径2~5mmの炭化物10%含む

e-e'

H=51.300m



焼土1

- 1 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり中 径1~2mmの炭化物2%含む

f-f'

H=51.100m



焼土2

- 1 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強

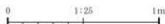
g-g'

H=51.200m

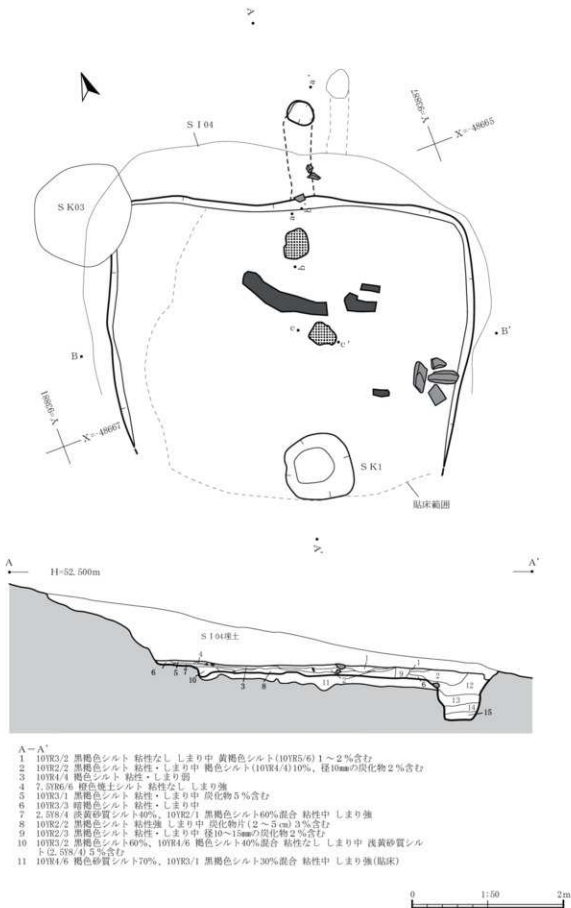


炭範囲2

- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 粘性・しまりなし 径2~5mmの炭化物5%含む



第20図 S105 壁穴住居跡3

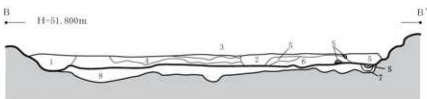


第21図 S106竪穴住居跡1

SK 1

a-a'

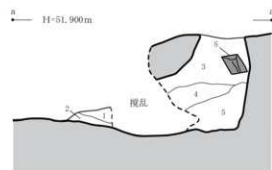
- 12 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱・しまり中 径15～25mmの炭化物1%含む
 13 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色焼土(7.5YR4/4)ブロックで2%含む
 14 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
 15 10YR5/4 に近い黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中



B-B'

- 1 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)20%含む
 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱・しまり中 炭化物3%含む
 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径3～4mm)1～2%含む
 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6 径5～7mm)3%、径5～8mmの炭化物1%、径5～15mmの礫5～7%含む
 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱・しまり中 褐色シルト(10YR4/4)3～5%含む
 6 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)1%、径5～7mmの炭化物2%含む
 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)5～7%含む
 8 10YR4/6 褐色砂質シルト70%、10YR3/1 黒褐色シルト30%混合 粘性中・しまり強(粘床)

0 1:50 2m



- 1 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性中・しまり強

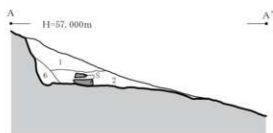
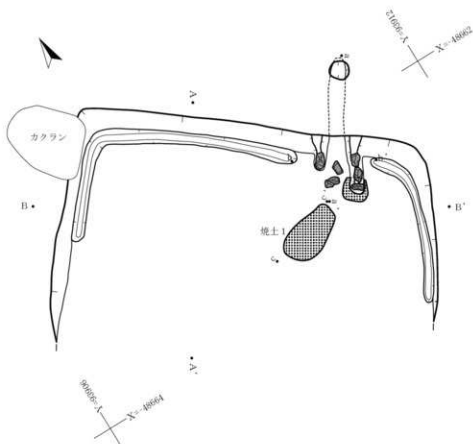


a-a'

- 1 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR3/1)5～7%含む(S104臥床土)
 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(5YR5/8)3～5%含む
 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱・しまりなし
 4 10YR4/4 褐色シルト 粘性中・しまりなし
 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性中・しまりなし

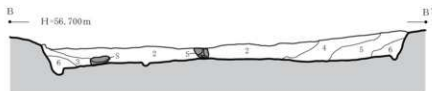
- 1 5YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性弱・しまり中
 2 10YR4/4 褐色シルト70%、10YR3/1 黒褐色シルト30%混合 粘性なし・しまり中
 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし・しまり中

0 1:25 1m



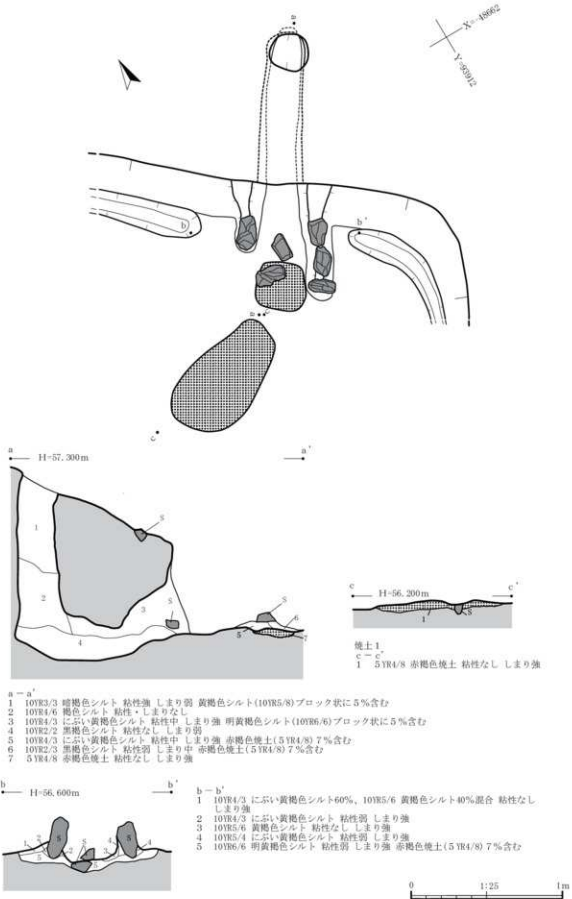
A-A', B-B'

- 1 101R3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 径1mmの礫粒を3~5%含む
- 2 101R3/4 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 径3mmの礫粒を5~7%、炭化物1%未満含む
- 3 101R4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり強 黄褐色シルト粒(10 YR5/6 径2~3mm)1%含む
- 4 101R3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり強 炭化物1%未満含む
- 5 101R4/4 褐色シルト 粘性なし しまり強 径3~5mmの礫粒を3%含む
- 6 101R2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまり中

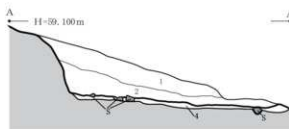
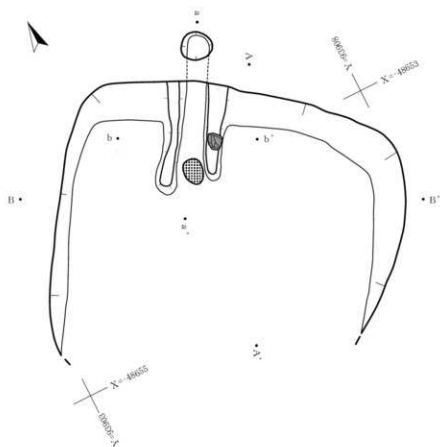


0 1:50 2m

第23図 S I 07 竪穴住居跡1



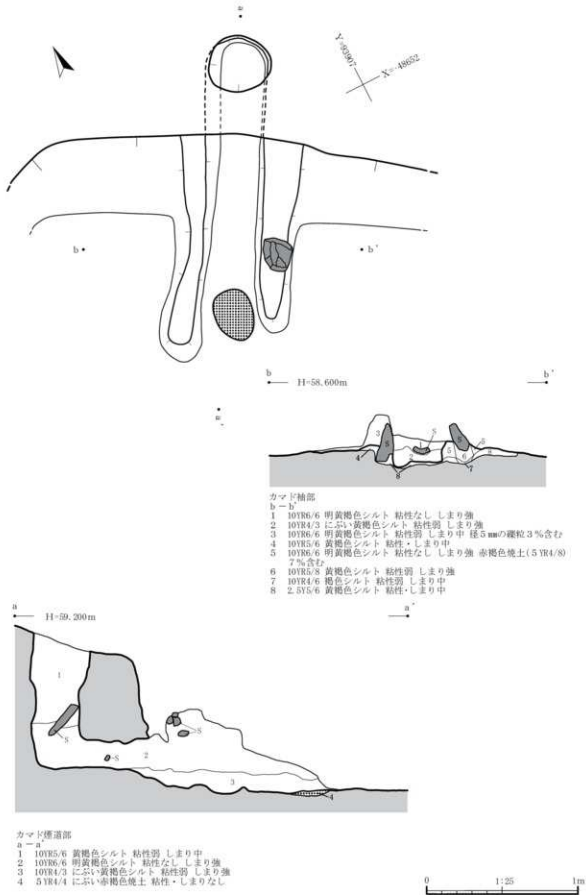
第24図 S107 壁穴住居跡2



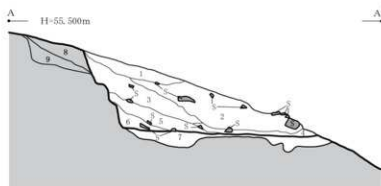
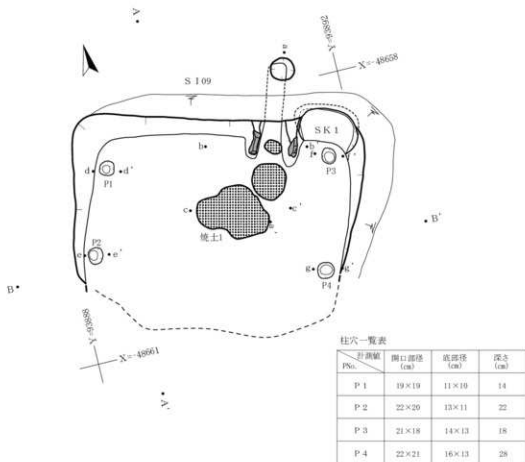
- A-A', B-B'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 2 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性強 しまり中
 - 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
 - 4 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり強 赤褐色焼土(5YR4/8) 3~5%含む



第25図 S108 竪穴住居跡1



第26図 S108 壁穴住居跡2



A-A'

- 1 2.5Y6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)10%含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(2.5Y6/6)10%含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)3%、径2mmの炭化物1%以下含む
- 4 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 褐色シルト(10YR4/6)1%、径2mmの炭化物1%以下含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)3%含む
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)5~7%含む
- 7 10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 径5cmの礫5~7%含む
- 8 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
- 9 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強

0 1:50 2m

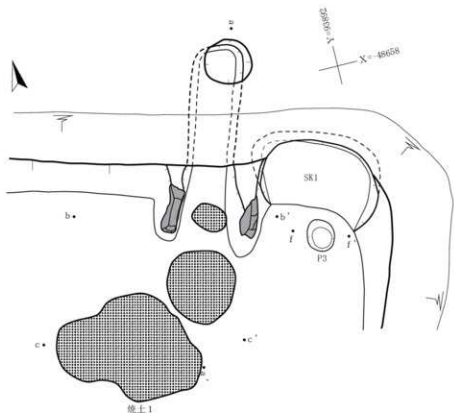
第27図 S109 竪穴住居跡1



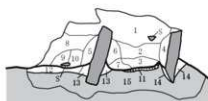
B-B'

- 1 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強 径10cmの礫15%含む
- 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 径5mmの炭化物3%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)3%含む
- 5 10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 径5cmの礫5~7%含む

0 1:50 2m



横上1

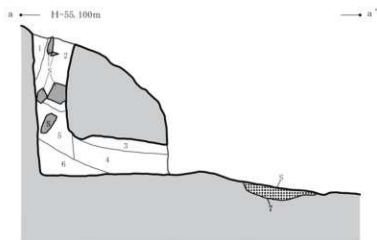
b
H-54,600m
b'

b-b'

- 1 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2mmの礫粒3%含む
- 2 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)3~5%含む
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 赤褐色焼土(5YR4/8)1%含む
- 4 10YR4/4 褐色シルト 粘性なし しまり中 径5mmの炭化物1%未満含む
- 5 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり中
- 6 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性・しまり中 径5mmの炭化物1%未満含む
- 7 5YR5/8 赤褐色焼土 粘性・しまり強
- 8 10YR2/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり強
- 9 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性・しまり強
- 10 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強
- 11 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり強
- 12 10YR5/4 に近い黄褐色シルト 粘性中 しまり強
- 13 2.SY5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 赤褐色焼土(5YR4/8)1%未満含む
- 14 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強
- 15 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強

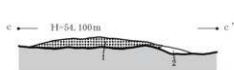
0 1:25 1m

第28図 S109 壁穴住居跡2



a-a'

- 1 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)10%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)3~5%含む
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性強・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6)5%含む
- 4 10YR4/4 褐色シルト 粘性強・しまりなし
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性強・しまりなし 黄褐色シルト(10YR5/6)3%含む
- 6 10YR4/6 褐色シルト60%, 10YR3/3 暗褐色シルト40%混合 粘性・しまり中
- 7 5YR4/8 赤褐色後土 粘性なし・しまり強



坑土1

c-c'

- 1 5YR4/6 赤褐色後土 粘性なし・しまり強
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし・しまり強



P1

d-d'

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし・しまり強



P2

e-e'

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし・しまり中 径3mmの炭化物1%以下含む



P3

f-f'

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性的・しまり中



P4

g-g'

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中



2 土 坑 (SK01～04)

調査区全体で4基検出した。

SK01土坑 (第30図、写真図版21)

<位置・検出・重複関係> 調査区中央よりやや北側のIA14sグリッド付近に位置し、IV層で検出した。遺構の一部が調査区外へと延びる。重複する遺構はない。

<形状・規模> 形状は歪んだ楕円形で、規模は開口部径181×167cm、底部径128×114cm、深さ101cmである。

<壁・底面> 底面は平坦で、壁は外傾～内湾気味に立ち上がる。

<埋土> 自然堆積を呈し、上～中位は黒褐色シルト、下位は褐色シルトを主体に黒褐色シルトが縞状に混在する。全体に礫が多く含まれる。

<遺物> 埋土から土師器629gが出土した。小片のため図化・掲載は行っていない。他に鉄滓415.8gが出土した。

<時期> 出土遺物から平安時代と考えられるが、いずれも小片のため詳細は不明である。

SK02土坑 (第30図、写真図版21)

<位置・検出・重複関係> 調査区西側のIA15pグリッド付近に位置し、IV層で検出した。重複する遺構はない。

<形状・規模> 形状は歪んだ楕円形で、規模は開口部径162×171cm、底部径98×111cm、深さ101cmである。

<壁・底面> 底面は平坦で、壁は垂直～外傾して立ち上がる。

<埋土> 自然堆積を呈し、上～中位は灰黄褐色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とし、各層に黄褐色シルトのブロックが混在する。

<遺物> 埋土から土師器9.7g、須恵器623.4gが出土した。小片のため図化・掲載は行っていない。他に鉄滓74.8gが出土した。

<時期> 出土遺物から平安時代と考えられるが、いずれも小片のため詳細は不明である。

SK03土坑 (第30図、写真図版21)

<位置・検出・重複関係> 調査区北西のIA14rグリッドに位置し、IV層で検出した。S I 04・S I 06と重複する。S I 04より古く、S I 06より新しい。

<形状・規模> 形状は楕円形で、規模は開口部径131×126cm、底部径106×104cm、深さ60cmである。

<壁・底面> 底部に平坦で、壁は北壁が外反、南壁は外傾して立ち上がる。

<埋土> 自然堆積を呈し、上～中位は暗褐色シルト、下位は褐色シルトを主とする堆積である。

<時期> 遺構の重複関係から平安時代と考えられる。

SK04土坑 (第30図、写真図版21)

<位置・検出・重複関係> 調査区西側のIA14qグリッド付近に位置し、IV層で検出した。S I 05と重複し、S I 05より古い。

<形状・規模> 形状は楕円形で、規模は開口部径147×193cm、底部径119×143cm、深さ45cmである。

<壁・底面> 底面は平坦で、壁は南壁が外傾して立ち上がり、S I 05に削平されている北壁は内傾して立ち上がる。

<埋土> 自然堆積を呈し、上位は暗褐色粘土質シルト、下位は黄褐色シルトを主体とし、各層に浅黄褐色砂質シルトのブロックが混在する。

<遺物> 埋土から土師器197.9g、鉄滓159.8g等が出土した。このうち土師器甕1点(36)、鉄製品2点(37・38)を図化・掲載した。

<時期> 出土した遺物の年代観から、9世紀後半～10世紀初頭頃に属すると想定される。

3 焼成遺構(S L 01～06)

土坑状の掘り込みがあり、壁面や底面に炭化物、焼土など比熱を受けた痕跡が確認された遺構を焼成遺構(S L 01～06)とした。

S L 01焼成遺構(第31図、写真図版21)

<位置・検出・重複関係> 調査区北西のI B 14c グリッドに位置し、IV層で検出した。遺構の南西側が削平される。重複する遺構はない。

<形状・規模> 楕円状の形状を呈し、規模は残存する開口部で147cm、底部117cm、深さ44cmである。

<壁・底面> 底面は平坦で、壁は外傾気味にやや緩い立ち上がりを呈する。底面中央に径50×35cmの範囲で赤褐色焼土を検出した。焼土の層厚は最大4cmである。

<埋土> 自然堆積を呈し、暗褐色シルトの単層である。

<遺物> 埋土から土師器29g、鉄滓160gが出土した。小片のため図化・掲載は行っていない。

<時期> 検出状況や出土遺物から、古代に属すると考えられるが詳細は不明である。

S L 02焼成遺構(第31図、写真図版22)

<位置・検出・重複関係> 調査区中央のI A 17r グリッドに位置し、III層で検出した。重複する遺構はない。

<形状・規模> 形状は楕円形で、規模は開口部径115×79cm、底部径96×58cm、深さ23cmである。

<壁・底面> 底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面～南側壁面にかけて炭化物が径101×70cmの範囲で広がっている。

<埋土> 自然堆積を呈し、上～中位は黒褐色シルト、下位は黄褐色シルトや炭化物を含む黒褐色シルトを主とする堆積である。

<時期> 検出状況から他の遺構と近い時期と考えられるが、遺物が出土していないため、詳細は不明である。

S L 03焼成遺構(第31図、写真図版22)

<位置・検出・重複関係> 調査区中央よりやや東側のI A 18t、I B 18a グリッドに跨がって位置し、IV層で検出した。遺構の西半分は削平されている。重複する遺構はない。

<形状・規模> 遺構の西半分が削平を受けるが、形は楕円状と推定される。規模は残存する開口部径121cm、底部径112cm、深さ23cmである。

<壁・底面> 底面は緩い凹凸があり、壁は外傾気味に立ち上がる。底面中央部に明赤褐色焼土が径

95×57cmの範囲で広がる。焼土の層厚は最大5cmである。

<埋土> 自然堆積を呈し、上～中位は黒褐色シルト、下位は黒色シルトと褐色シルトが混在する堆積である。

<遺物> 埋土から土師器61.9gが出土したが小片のため固火・掲載は行っていない。

<時期> 検出状況から古代に属すると考えられるが、遺物が小片のため詳細は不明である。

S L04焼成遺構（第31図、写真図版22）

<位置・検出・重複関係> 調査区西側のI A15sグリッドに位置し、IV層で検出した。

<形状・規模> 形状は不整形な形状を呈し、規模は開口部径95×87cm、底部径67×66cm、深さ25cmである。

<壁・底面> 底面は平坦で、壁は外傾・垂直気味に立ち上がり、全体に東壁側がやや緩い立ち上がりを呈する。

<埋土> 埋土の大半を炭化物の堆積層で占め、下層に暗褐色シルト・焼土粒が少量含まれる。

<遺物> 出土した炭化材をサンプルとして取り上げ、1点を肉眼による鑑定を行った結果、ケヤキであることが明らかになった。

<時期> 検出状況から他の遺構と近い時期と考えられるが、遺物が出土していないため、詳細は不明である。

S L05焼成遺構（第32図、写真図版23）

<位置・検出・重複関係> 調査区西側のI A17qグリッドに位置し、III層で検出した。

<形状・規模> 形状は円～楕円形で、規模は開口部径134×123cm、底部径104×99cm、深さ40cmである。

<壁・底面> 底面は平坦で、壁は緩い立ち上がりを呈する。南西壁面から底面にかけて炭層があり、その下層に明赤褐色焼土を検出した。炭化物の範囲は径111×108cm、焼土範囲は径104×99cm、層厚は最大で6cmである。

<埋土> 自然堆積を呈し、上～中位は黒色シルト、下位は炭化物を含む黒褐色シルトを主体とする堆積である。

<時期> 検出状況から他の遺構と近い時期と考えられるが、遺物が出土していないため、詳細は不明である。

S L06焼成遺構（第32図、写真図版23）

<位置・検出・重複関係> 調査区西側のI A16qグリッド付近に位置し、IV層で確認した。

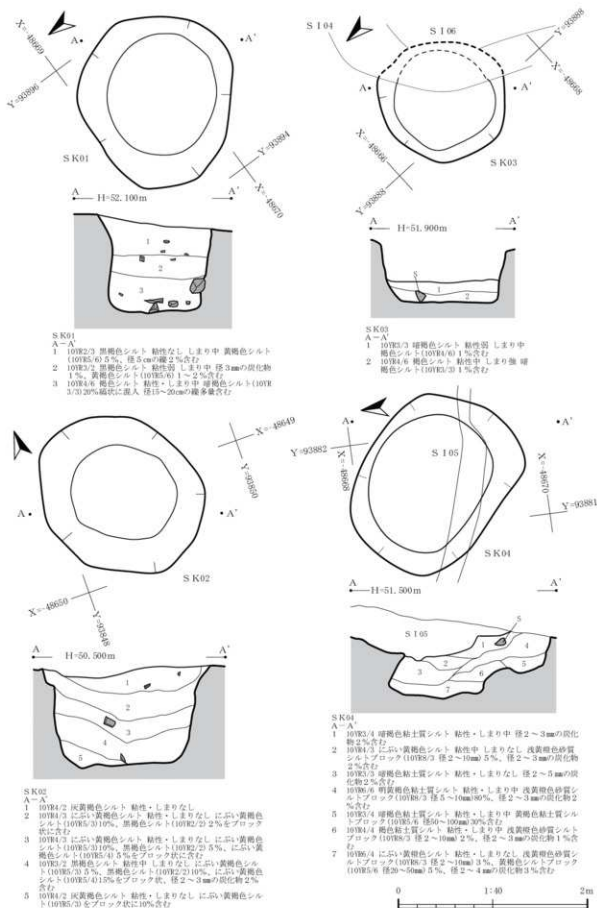
<形状・規模> 形状は細長い楕円形で、規模は開口部径5.45×1.20m、底部径4.99×0.89m、深さ24cmである。

<壁・床面> 底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。遺構底面全域に炭化物層があり、範囲は径5.38×1.13mである。また、その下層には焼成痕が径5.01×0.95mの範囲で広がっている。

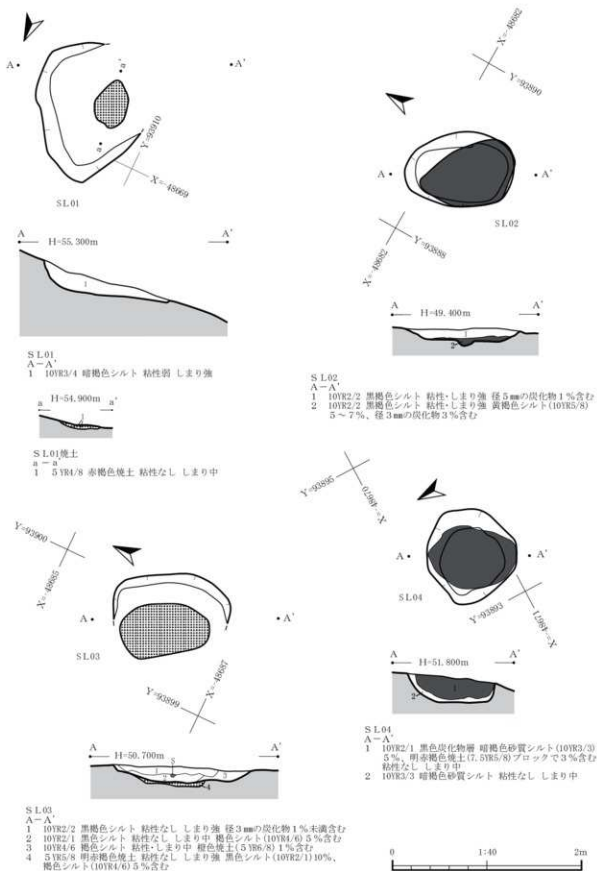
<埋土> 埋土の大半は炭化物の堆積層で、他に黒褐色シルト・焼土粒が含まれる。

<遺物> 鉄滓が60.3g出土し、うち1点を掲載した(292)。また、炭化材4点をサンプルとして取り上げ、肉眼による鑑定を行った結果、1点がナラ、3点がケヤキであった。

<時期> 時期を特定しうる遺物が出土していないため詳細は不明である。

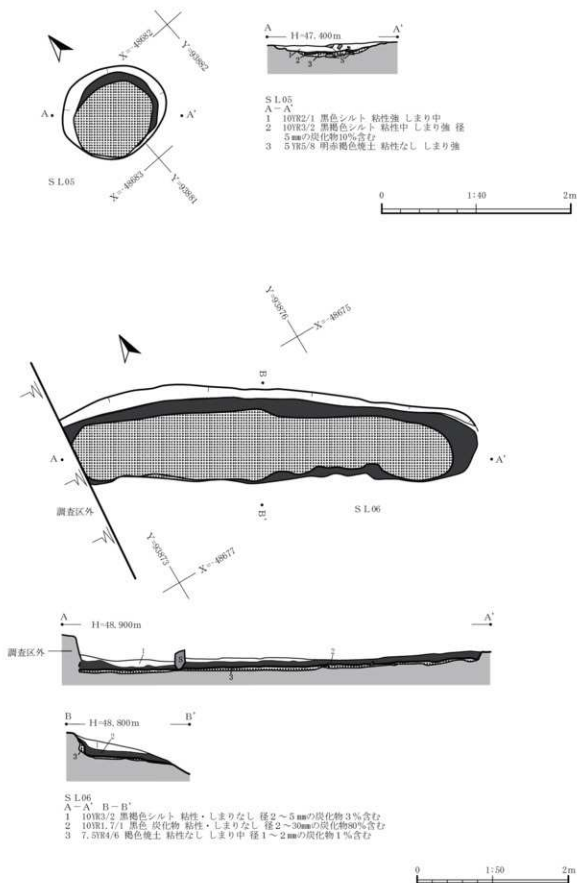


第30図 SK01~04土坑



第31図 S L 01～04 焼成遺構

3 焼成遺構



第32図 S L 05・06 焼成遺構

V 出土遺物

古代の土器（1～3・15～19・31・34・36・39）

総量で大コテナ（412×312×290）1箱分、13,867.7gが出土した。このうち土師器が12,243.2g、須恵器が1,624.5gで約9：1の比率であり、93%が遺構内からの出土である。掲載したのは復元し、図化を行った12点で土師器10点、須恵器2点である。器種別では坏2点、甕9点、長頸壺1点で、口縁～底部まで確認できるものもあるが、一部が破片での出土である。坏は15・39で15はS I 05、39は遺構外からの出土で、いずれも底部は欠落し、口縁～体部の破片であるが、ロクロ成形で内面が黒色処理され、ミガキが施されている。1～3・16・17・31・34・36は土師器甕で、1～3はS I 02埋土および貼床、16・17はS I 05、31はS I 06、34はS I 07、36はS K 04で、31が貼床で他は埋土からの出土である。いずれも非ロクロ成形で胴部上半に最大径をもち、口縁が短く外傾ないし外反する特徴をもつ。器面調整は内外面ナデで、外面の調整はいずれも縦位方向である。18・19はS I 05埋土から出土した須恵器でいずれもロクロ成形によるもので18は甕の口縁部破片、19は長頸壺の底部破片である。時期は遺物の特徴から宇部氏（2013）による編年の8期に該当し、9世紀末～10世紀前半頃と考えられる。

弥生土器（12・13・29・30・41）

12は深鉢土器の口縁部破片で、重菱沈線文が施されている。29は蓋形土器の破片で、形状は正方形で辺の中央部が突起状に張り出した形状を呈すると推測される。蓋の天井部には附加条縄文が施されている。30は弧状沈線文と渦巻状の文様帯などで構成される壺形土器の体部破片と考えられる。13・41は器種は不明（深鉢？）であるが、体部には附加条縄文が13は斜位、41は縦位方向に施され、底部付近のみ斜位に施されている。時期は12・30が中期後葉、13・29・41は後期以降と考えられる。

鉄製品（5～11・21～26・32・33・35・37・38・40）

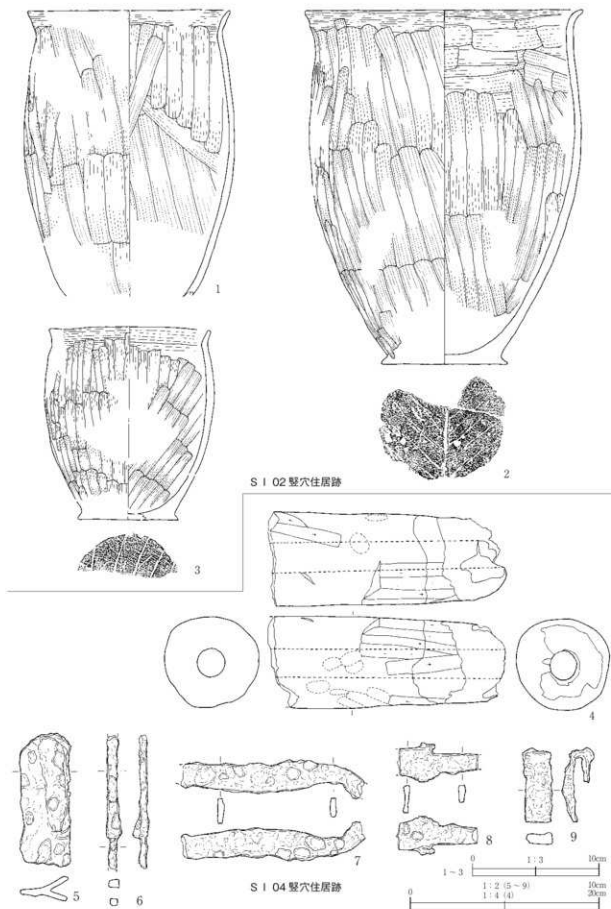
5～11はS I 04、21～26はS I 05、32・33はS I 06、35はS I 07、37・38はS K 04、40は遺構外からそれぞれ出土したもので、1・5は鋤先および鋸先の一部、6・23・24・37は鉄鏃、8・22・25・26・32・35は刀子で、8は基部、22は刃部のみである。10・11・21・38・40は筒状の形をした製品で板状の鉄を折り曲げて作られている。用途は不明である。7は柄の曲がった刀子の形状を呈するが、刃部がないため、未製品である可能性も考えられる。9・33は器種不明で、9は片側が折り曲げられた形状を呈する。

羽口（4・20）

4はS I 04のカマド燃焼部に立てた状態で見つかったもので、支脚として使用していたものと考えられる。20はS I 05の埋土から出土した先端の一部で長さは6.6cmほどである。

石器（14・27・28）

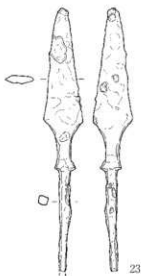
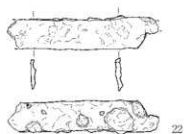
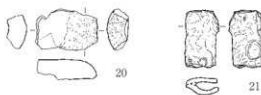
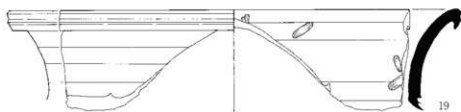
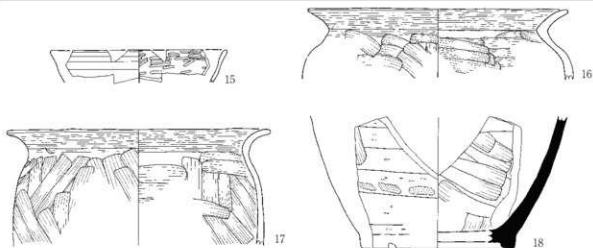
14はS I 04の埋土から出土した剥片で片側に刃部を有する。27・28はS I 05埋土より出土した磨石で27は両面、28は片面に磨痕がある。



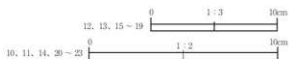
第33圖 遺構内出土遺物1



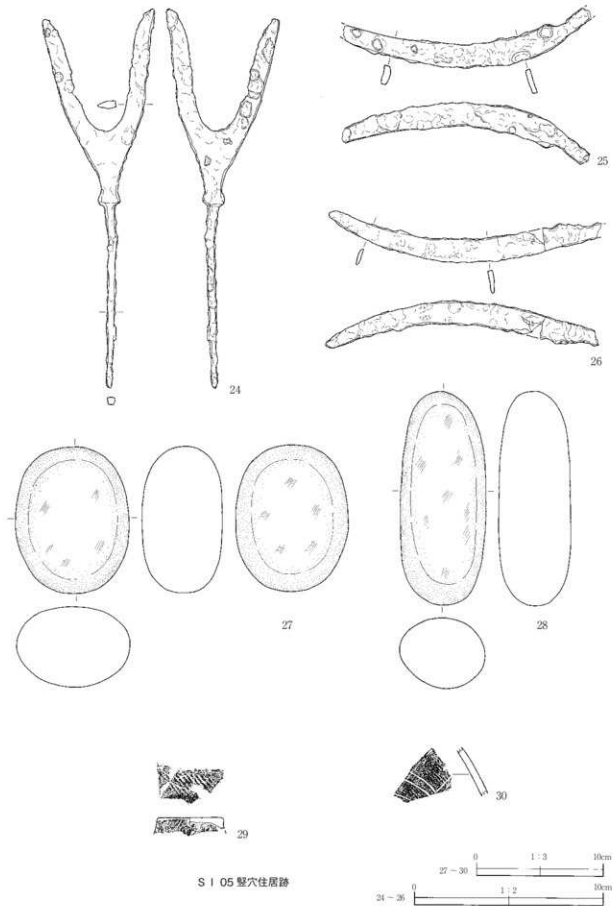
S104 竪穴住居跡



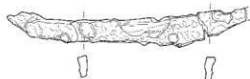
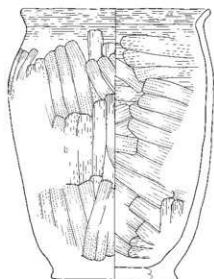
S105 竪穴住居跡



第34図 遺構内出土遺物2

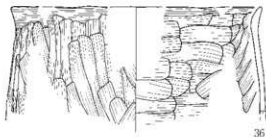


第 35 図 遺構内出土遺物 3

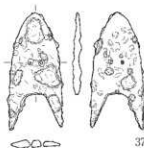


S I 07 竪穴住居跡

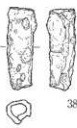
35



36



37



38

S K 04 土坑



39



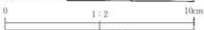
40



41



遺構外



第36図 遺構内出土遺物4、遺構外出土遺物

鉄滓 (42～295)

全体で254点、16807.0g出土した。内訳は炉内滓5898.2g、炉底滓7409.9g、流出滓7543g、再結合滓1339.9g、鍛冶滓1108.0g、椀形滓296.7gである。このうち鍛冶滓は全てS102の床面から集中して見つかった。これ以外は堆積土からの出土がほとんどで、遺構外からの混入と考えられる。254点中17点を図化し、他は表掲載とした。

第3表 遺物観察表

土師器・須恵器

No	出土地点	層位	種別	器種	部位	器面調整			計測値 (cm)		備考	図版	写真	
						外面	内面	底部外面	口径	器高				底径
1	S102	埋土、床面、船塚	土師器	甕	口縁-体部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		(160)	(22.6)	-	33	24	
2	S102	埋土、船塚	土師器	甕	口縁-底部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	木製痕	(220)	28.0	(10.0)	器面外面上部に保付着	33	24
3	S102	埋土	土師器	甕	口縁-底部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	木製痕	(128)	15.2	(8.0)		33	24
15	S105	床面炭層間	土師器	杯	口縁-体部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		(14.0)	(2.6)	-	34	25	
16	S105	埋土	土師器	甕	口縁-体部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		(206)	(5.5)	-	34	25	
17	S105	埋土	土師器	甕	口縁-体部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		(208)	(9.2)	-	34	25	
18	S105	埋土	須恵器	長頸甕	体-底部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		-	-	-	34	25	
19	S105	埋土	須恵器	甕	口縁部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		-	-	-	34	25	
31	S106	船塚	土師器	甕	口縁-体部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		(150)	(13.8)	-	36	26	
34	S107	埋土	土師器	甕	口縁-底部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	木製痕	(150)	(16.4)	(10.0)		36	26
36	S104	埋土	土師器	甕	口縁-体部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		(198)	(9.5)	-	器面外面に保付着	36	26
29	両布区	検出	土師器	杯	口縁-体部	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)	口縁:ナデ(横) 体部:ナデ(縦)		-	-	-	36	26	

※ () は測定値、() は残存値

弥生土器

No	出土地点	層位	器種	部位	外面(文様)	備考	図版	写真
12	S104	埋土	深鉢	口縁部	垂葉沈線文	中期	34	24
13	S104	埋土	深鉢?	口縁部	垂葉文L	後期(赤穴式)	34	24
29	S105	検出面	甕?	底部	附加糸縄文:体部縦・底部横	後期(赤穴式)	35	25
30	S105	埋土	甕	口縁部	弧状沈線文	中期	35	25
41	表塚	埋土	深鉢?	底部	附加糸縄文(無筋縄文L)	後期(赤穴式)	36	25

羽口

No	出土地点	層位	残存長 (cm)	内径 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	外面形状	色調	欠損部への存着	備考	図版	写真
4	S104	カマド	(25.0)	(3.0)	(9.8)	2279.0	ケズリ				33	24
20	S105	埋土	(6.6)	-	-	47.6					34	25

金属製品

No	出土地点	層位	素材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	図版	写真
5	S I 04	埋土	鉄	鋸? 鋸?	7.0	27	1.3	30.77		33	24
6	S I 04	埋土	鉄	鉄線	7.1	0.8	0.4	5.16		33	24
7	S I 04	埋土	鉄	刀子?	9.8	2.0	0.3	16.10		33	24
8	S I 04	埋土	鉄	刀子	4.3	2.0	0.4	6.31		33	24
9	S I 04	埋土	鉄	不明	3.9	1.6	0.6	6.31		33	24
10	S I 04	埋土	鉄	筒状製品	4.3	1.6	0.3	13.99		34	24
11	S I 04	埋土	鉄	筒状製品	3.3	1.9	1.4	6.60		34	24
21	S I 05	炭範囲 1	鉄	筒状製品	3.0	1.8	0.9	10.49		34	25
22	S I 05	埋土	鉄	刀子	8.0	1.8	0.3	17.37		34	25
23	S I 05	埋土	鉄	鉄線	13.9	2.1	0.5	22.87		34	25
24	S I 05	埋土	鉄	鉄線	19.5	6.0	0.4	37.99		35	25
25	S I 05	埋土	鉄	刀子	13.2	3.2	0.3	16.79		35	25
26	S I 05	埋土	鉄	刀子	14.4	1.3	0.2	16.76		35	25
32	S I 06	貼床土	鉄	刀子	6.7	1.8	0.5	6.83		36	26
33	S I 06	貼床土	鉄	不明	8.7	2.0	0.2	8.95		36	26
35	S I 07	床面直上	鉄	刀子	12.7	2.1	0.5	17.30		36	26
37	S K 04	埋土	鉄	鉄線	6.2	2.9	0.4	8.47		36	25
38	S K 04	埋土	鉄	筒状製品	4.3	1.5	0.3	12.06		36	26
40	I B 16 b	IV層	鉄	筒状製品	4.3	1.6	0.2	11.80		36	26

石器

No	出土地点	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	図版	写真
				長さ	幅	厚さ				
14	S I 04	埋土	搔器	5.9	3.0	1.0	14.9	頁岩・北上山地・中生代	34	24
27	S I 05	埋土	磨石	11.6	9.0	6.4	1024.1	花崗岩・北上山地・中世代白堊紀	35	26
28	S I 05	埋土	磨石	15.9	6.8	5.6	1030.1	花崗岩・北上山地・中世代白堊紀	35	26

鉄滓

No.	頂上地点・層位	種別	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	表面色調	特徴	写真
			長さ	幅	厚さ						
42	S 1 02 黒土	砂内層	5.8	3.5	2.6	44.9	あり	強	黒褐色	不整形で部分的に結化が進んでいる。	
43	S 1 02 黒土	砂内層	3.5	2.0	2.0	10.1	あり	中	黒褐色	楕円形の塊状で炭化材の付着痕が見られる。	
44	S 1 02 黒土	砂内層	3.6	2.0	1.5	9.9	あり	中	黒褐色	楕円形の塊状で砂粒・鉄屑が付着する。	
45	S 1 02 黒土	砂内層	2.7	2.1	1.7	6.3	あり	中	黒褐色	楕円形の塊状で鉄屑が付着する。	
46	S 1 02 黒土	砂内層	2.8	1.8	1.3	3.7	あり	なし	黒褐色	やや扁平な不整形で鉄屑が多く付着する。	
47	S 1 02 鉄滓集中箇所	砂内層	4.6	3.7	2.9	30.4	なし	なし	黒褐色	塊状で砂粒・鉄屑がわずかに付着する。	
48	S 1 02 粉床土	砂内層	3.7	2.7	1.9	15.1	あり	強	黄褐色	扁平な方形で一箇所破砕し、全体的に鉄屑の付着が著しい。	
49	S 1 02 粉床土	砂内層	3.0	3.0	2.5	15.1	なし	なし	黄褐色	不整形の塊状で部分的に結化が進んでいる。	
50	S 1 04 黒土	砂内層	9.1	4.8	3.4	156.0	あり	強	黒褐色	不整形の塊状で部分的に結化が進んでいる。	27
51	S 1 04 黒土	砂内層	7.4	4.3	3.9	127.7	あり	強	暗褐色	不整形の塊状で鉄屑・砂粒・炭化材が付着する。	
52	S 1 04 黒土	砂内層	6.4	4.0	3.4	70.6	あり	強	黒褐色	不整形の塊状で鉄屑が付着する。	
53	S 1 04 黒土	砂内層	7.0	4.0	2.2	66.0	あり	強	黒褐色	扁平な星へ状状で小型の窪が付着する。	
54	S 1 04 黒土	砂内層	4.2	4.0	2.3	41.0	あり	強	暗褐色	やや扁平な不整形で全体的に結化する。	
55	S 1 04 黒土	砂内層	4.1	4.1	2.6	40.7	あり	強	黒褐色	楕円形の塊状で全体的に結化が進んでいる。	
56	S 1 04 黒土	砂内層	3.3	2.4	1.5	22.5	あり	強	黒褐色	不整形で全体的に鉄屑が付着する。	
57	S 1 04 黒土	砂内層	3.6	2.8	2.2	18.0	あり	強	黒褐色	不整形の塊状で全体的に鉄屑が付着する。	
58	S 1 04 黒土	砂内層	2.2	2.2	1.7	9.0	あり	強	黒褐色	不整形で全体的に結化が進んでいる。	
59	S 1 04 黒土	砂内層	2.7	1.8	1.4	6.6	あり	強	黒褐色	やや扁平な不整形で鉄屑・小石が付着する。	
60	S 1 04 黒土	砂内層	4.8	2.6	1.8	12.6	あり	弱	黒褐色	歪な楕円形で部分的に結化が進んでいる。	
61	S 1 04 黒土	砂内層	3.2	2.2	1.8	9.4	あり	弱	黒褐色	不整形で部分的に鉄屑が付着する。	
62	S 1 04 黒土	砂内層	2.4	2.3	1.7	9.3	あり	弱	黒褐色	塊状で全体的に鉄屑が付着する。	
63	S 1 04 黒土	砂内層	3.5	2.2	2.0	8.9	あり	弱	黒褐色	やや扁平な塊状で一部に鉄屑が付着する。	
64	S 1 04 黒土	砂内層	2.1	1.9	0.9	2.4	あり	弱	黒褐色	扁平で砂粒がわずかに付着する。	
65	S 1 04 黒土	砂内層	1.9	1.3	1.3	2.9	あり	なし	暗褐色	塊状で全体的に結化が進む。	
66	S 1 04 床面	砂内層	7.0	6.2	3.4	127.6	あり	強	褐色	凹凸のある不整形で鉄屑の付着が著しい。	
67	S 1 04 床面	砂内層	8.1	4.3	3.4	119.2	あり	強	褐色	楕円形の塊状である。砂粒・小石・鉄屑が付着する。	
68	S 1 04 床面	砂内層	5.2	4.1	3.2	48.5	あり	中	黄褐色	塊状で鉄屑の付着が著しい。わずかに砂も見られる。	
69	S 1 04 床面	砂内層	3.5	3.0	2.3	31.4	あり	中	暗褐色	角張った塊状で全体的に結化が進む。	
70	S 1 05 黒土	砂内層	6.8	5.4	3.7	174.1	あり	強	黄褐色	楕円形の塊状で全体的に鉄屑が付着する。また砂粒がわずかに付着する。	27
71	S 1 05 黒土	砂内層	7.5	7.5	3.9	144.7	あり	強	明黄褐色	不整形で凹凸がある。全体的に鉄屑の付着が著しい。また、わずかに砂粒が付着する。	
72	S 1 05 黒土	砂内層	7.0	4.0	3.9	137.8	あり	強	褐色	不整形な方形で鉄屑の付着し、わずかに砂粒も見られる。	
73	S 1 05 黒土	砂内層	6.9	5.4	2.7	109.9	あり	強	明黄褐色	やや扁平な塊状で鉄屑・砂粒が付着する。	
74	S 1 05 黒土	砂内層	6.4	4.0	3.7	104.5	あり	強	黄褐色	不整形で全体的に鉄屑の付着が著しい。	
75	S 1 05 黒土	砂内層	5.4	4.3	4.0	89.7	あり	強	明褐色	やや角張った塊状で鉄屑が付着する。	
76	S 1 05 黒土	砂内層	6.9	4.9	3.3	85.3	あり	強	黄褐色	扁平な星へ状状で全体的に結化が進む。	
77	S 1 05 黒土	砂内層	7.3	4.7	3.5	78.1	あり	強	明褐色	やや扁平な塊状で全体的に結化が進む。	
78	S 1 05 黒土	砂内層	5.8	4.6	3.2	76.4	あり	強	黒褐色	不整形な塊状で部分的に鉄屑が付着する。	
79	S 1 05 黒土	砂内層	5.2	4.7	4.5	74.2	あり	強	黒褐色	不整形な塊状で一部に著しく鉄屑が付着する。また、炭化材の付着痕が見られる。	
80	S 1 05 黒土	砂内層	5.1	4.3	2.7	67.2	あり	強	黄褐色	不整形な塊状で全体に鉄屑が付着する。	
81	S 1 05 黒土	砂内層	4.3	3.7	3.2	37.8	あり	強	褐色	やや角張った不整形で全体的に結化が進む。	
82	S 1 05 黒土	砂内層	5.1	3.6	2.3	51.9	あり	強	黄褐色	扁平な星へ状状で全体的に結化が進む。小石・小型窪が付着する。	
83	S 1 05 黒土	砂内層	4.4	3.6	2.5	30.8	あり	強	明褐色	歪な楕円形で鉄屑・砂粒が付着する。	
84	S 1 05 黒土	砂内層	5.0	3.9	2.1	42.3	あり	強	黄褐色	やや扁平な三角形状で全体に鉄屑が付着する。	
85	S 1 05 黒土	砂内層	5.0	3.4	2.8	34.7	あり	強	明褐色	不整形で全体的に鉄屑の付着が著しい。	
86	S 1 05 黒土	砂内層	4.2	3.0	2.2	32.6	あり	強	褐色	方形の塊状で全体に鉄屑が付着する。	

鉄滓

No.	出土地点・層位	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	組着度	メタル度	表面色調	特徴	写真
			長さ	幅	厚さ						
87	S 1 05 雑土	伊内浮	4.0	3.1	2.2	293	あり	強	黒褐色	扁平な板状で部分的に鉄筋が付着する。	
88	S 1 05 雑土	伊内浮	5.0	3.1	1.7	267	あり	強	褐色	棒が折れたような形状で小形滓が付着する。	
89	S 1 05 雑土	伊内浮	3.1	2.3	2.1	171	あり	強	黒褐色	塊状で鉄筋や小形滓が付着する。	
90	S 1 05 雑土	伊内浮	3.6	2.2	1.8	13.5	あり	強	黄褐色	塊状で全体に鉄筋が付着する。	
91	S 1 05 雑土	伊内浮	2.6	2.2	1.7	11.1	あり	強	黄褐色	不整形な塊状で全体に鉄筋が付着する。	
92	S 1 05 雑土	伊内浮	2.8	2.3	1.7	10.1	あり	強	黄褐色	不整形な塊状で全体に鉄筋が付着する。	
93	S 1 05 雑土	伊内浮	2.4	2.1	1.9	6.7	あり	強	黄褐色	不整形な塊状で全体に鉄筋が付着する。	
94	S 1 05 雑土	伊内浮	2.4	1.6	0.9	6.2	あり	強	黒褐色	扁平な方形で一部に鉄筋が付着する。	
95	S 1 05 雑土	伊内浮	2.2	1.6	1.1	4.5	あり	強	黄褐色	扁平な塊状で全体的に錆化が進む。	
96	S 1 05 雑土	伊内浮	10.4	7.9	6.5	405.2	あり	中	明褐色	凹凸のある塊状で全体的に鉄筋が付着する。	22
97	S 1 05 雑土	伊内浮	5.8	5.7	4.5	114.7	あり	中	黄褐色	鉄筋の塊で全体的に鉄筋の付着が著しい。	
98	S 1 05 雑土	伊内浮	6.9	4.1	3.5	57.1	あり	中	明褐色	不整形な塊で全体に鉄筋が付着する。砂粒もわずかに見られる。	
99	S 1 05 雑土	伊内浮	4.4	2.9	1.8	16.4	あり	中	黄褐色	不整形な塊状で全体に鉄筋が付着する。	
100	S 1 05 雑土	伊内浮	3.2	2.0	1.6	9.6	あり	中	黒褐色	棒状で鉄筋や小形滓が付着する。	
101	S 1 05 雑土	伊内浮	2.3	1.7	1.4	7.9	あり	中	褐色	不整形な塊状で全体的に錆化が進む。	
102	S 1 05 雑土	伊内浮	2.4	1.6	0.8	4.1	あり	中	褐色	扁平な方形で全体的に錆化する。	
103	S 1 05 雑土	伊内浮	1.7	1.2	1.0	3.2	あり	中	黄褐色	扁平な方形で全体に鉄筋が付着する。	
104	S 1 05 雑土	伊内浮	8.9	5.9	4.2	127.0	あり	弱	黄褐色	凹凸のある不整形で、全体に鉄筋が付着し、炭化材の付着痕が見られる。	
105	S 1 05 雑土	伊内浮	3.3	2.7	2.4	14.1	あり	弱	黄褐色	不整形な塊状で全体に鉄筋が付着する。	
106	S 1 05 雑土	伊内浮	4.2	2.8	1.4	12.2	あり	弱	黒褐色	やや扁平な不整形で部分的に錆化する。	
107	S 1 05 雑土	伊内浮	3.1	2.4	1.9	11.4	あり	弱	明褐色	塊状で鉄筋や砂粒が付着する。	
108	S 1 05 雑土	伊内浮	2.5	2.3	1.4	7.8	あり	弱	黄褐色	塊状で全体的に鉄筋の付着が著しい。	
109	S 1 05 雑土	伊内浮	2.5	1.8	1.7	7.4	あり	弱	黄褐色	塊状で全体に鉄筋が付着する。	
110	S 1 05 雑土	伊内浮	2.6	1.9	1.4	6.0	あり	弱	明黄褐色	楕円形で全体に鉄筋の付着が著しい。	
111	S 1 05 雑土	伊内浮	3.3	2.4	1.2	5.0	あり	弱	暗褐色	不整形で薄く厚みがない。一部に鉄筋が付着する。	
112	S 1 05 雑土	伊内浮	2.2	1.8	1.1	4.6	あり	弱	黄褐色	やや扁平な塊状で全体に鉄筋が付着する。	
113	S 1 05 雑土	伊内浮	2.1	1.9	1.2	4.3	あり	弱	暗褐色	塊状でわずかに鉄筋が付着する。	
114	S 1 05 雑土	伊内浮	1.7	1.6	1.0	3.1	あり	弱	明褐色	やや扁平で鉄筋の付着が著しい。	
115	S 1 05 雑土	伊内浮	2.2	1.9	0.5	2.0	あり	弱	にぶい黄褐色	厚みのない板状で表面が錆化している。	
116	S 1 05 雑土	伊内浮	1.8	1.6	1.2	4.5	あり	なし	褐色	塊状で全体に鉄筋が付着する。	
117	S 1 05 雑土	伊内浮	2.6	1.7	1.2	3.7	あり	なし	黒褐色	扁平な方形で表面がわずかに錆化する。	
118	S 1 05 雑土	伊内浮	1.6	1.5	0.8	2.2	あり	なし	暗褐色	やや扁平で端部に鉄筋が付着する。	
119	S 1 05 雑土	伊内浮	1.2	1.1	0.9	1.3	あり	なし	黒褐色	塊状で鉄筋が部分的に付着する。	
120	S 1 05 雑土	伊内浮	1.3	1.3	0.9	1.1	あり	なし	黄褐色	塊状で全体に鉄筋が付着する。	
121	S 1 05 雑土	伊内浮	6.9	4.1	3.1	140.4	なし	なし	灰色	角張った方形で表面の錆化が進む。	
122	S 1 05 雑土	伊内浮	3.5	2.4	2.3	20.8	なし	なし	褐色	不整形な塊状で表面の錆化が進むほか、気泡が目立つ。	
123	S 1 06 雑土	伊内浮	5.3	4.8	3.9	75.1	あり	強	黒褐色	不整形な塊状で一部に鉄筋が付着する。	
124	S 1 06 雑土	伊内浮	2.7	2.7	2.1	17.6	あり	強	黒褐色	やや扁平な塊状で上面は鉄筋の付着が著しい。	
125	S 1 06 雑土	伊内浮	3.1	2.8	1.7	14.1	あり	強	黒褐色	不整形で表面に炭化材の付着痕が見られる。	
126	S 1 06 雑土	伊内浮	2.7	2.7	1.9	13.1	あり	強	黒褐色	不整形で部分的に鉄筋が付着する。	
127	S 1 06 雑土	伊内浮	2.7	2.4	1.2	8.8	あり	強	暗褐色	扁平な板状で、全体的に錆化が進む。	
128	S 1 06 雑土	伊内浮	4.5	3.8	2.4	34.6	あり	中	黄褐色	塊状で全体的に鉄筋の付着が著しい。	
129	S 1 06 雑土	伊内浮	4.5	2.3	2.2	25.0	あり	中	黒褐色	楕円形の塊状で部分的に鉄筋が付着する。	
130	S 1 06 雑土	伊内浮	3.6	2.6	2.5	21.0	あり	中	黒褐色	方形の塊状で端部に鉄筋に覆われる。	
131	S 1 06 雑土	伊内浮	2.7	2.7	2.1	10.5	あり	弱	黒褐色	不整形で一部に鉄筋が付着する。	
132	S 1 06 雑土	伊内浮	3.2	2.2	1.6	7.3	あり	弱	明褐色	不整形で全体に鉄筋が付着する。	

鉄滓

No.	出土地点・ 品位	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	照看度	メタル 度	表面色調	特徴	写真
			長さ	幅	厚さ						
133	S 1 06 塵土	炉内部	25	20	12	48	あり	弱	明褐色	やや扁平な方形で全体に鉄滓が付着する。	
134	S 1 06 塵土	炉内部	32	23	67	36	あり	弱	明黄褐色	扁平な星→板状で部分的に酸化が進む。	
135	S 1 06 塵土	炉内部	21	21	16	62	あり	なし	黄褐色	塊状で酸化が進み、わずかに粒粒が付着する。	
136	S 1 06 塵土	炉内部	24	23	15	48	あり	なし	褐色	やや扁平な塊状で全体に酸化が進む。	
137	S 1 06 塵土	炉内部	23	22	15	35	あり	なし	暗褐色	不整形でわずかに鉄滓が付着する。	
138	S 1 06 塵土	炉内部	18	14	12	32	あり	なし	黄褐色	やや扁平な楕円形で一部が酸化する。	
139	S 1 06 塵土	炉内部	24	23	15	55	なし	なし	黄褐色	三角形でやや扁平である。鉄滓の付着が著しい。	
140	S 1 07 塵土	炉内部	59	41	27	576	あり	強	褐色	やや扁平な不整形で全体的に鉄滓の付着が著しい。また小型渣が結合している。	
141	S 1 07 塵土	炉内部	111	69	45	3130	あり	中	暗褐色	不整形で下部は塊状を呈し、全体的に鉄滓が付着する。	27
142	S 1 07 塵土	炉内部	55	31	29	440	あり	中	黄褐色	方形気味の塊状で鉄滓が全体に付着する。	
143	S 1 07 塵土	炉内部	45	26	19	117	あり	中	黄褐色	楕円形で鉄滓が全体に付着するほか、一部所破砕している。	
144	S 1 07 塵土	炉内部	49	34	28	280	あり	弱	黄褐色	楕円形の塊状で鉄滓が全体を覆っている。	
145	S 1 07 塵土	炉内部	47	38	22	415	あり	なし	黄褐色	扁平な星→板状で上面は鉄滓に覆われ、下面には砂が付着している。	
146	S 1 07 塵土	炉内部	32	28	15	175	あり	なし	明黄褐色	扁平な星→板状である。表面はなめらかで、全体的に酸化している。	
147	S 1 07 床面直上	炉内部	44	40	29	195	あり	中	黒褐色	不整形な塊状で鉄滓が全体に付着する他、小型渣が結合する。	
148	S 1 07 床面直上	炉内部	47	25	25	195	あり	弱	黄褐色	歪んだ楕円形で鉄滓が全体を覆っている。	
149	S 1 07 床面直上	炉内部	35	34	20	176	あり	弱	黄褐色	不整形で多数の渣が結合したものである。表面は鉄滓に覆われている。	
150	S 1 08 塵土	炉内部	28	22	15	71	あり	弱	黒褐色	不整形な塊状で鉄滓が部分的に付着している。一部所破砕する。	
151	S 1 08 塵土	炉内部	21	16	14	36	あり	なし	黄褐色	不整形で鉄滓が部分的に付着し、一部所破砕する。	
152	S 1 09 塵土	炉内部	30	25	21	145	あり	中	黄褐色	方形の塊状で全体に鉄滓の付着が著しい。	
153	S 1 09 塵土	炉内部	62	48	44	1072	あり	弱	暗褐色	凹凸のある塊状で鉄滓が全体に付着する。	
154	S 1 09 塵土	炉内部	50	40	22	412	あり	弱	褐色	扁平な星→板状で鉄滓の他に塊状の土・小石・炭化材の断片などが付着する。	
155	S 1 09 塵土	炉内部	72	45	25	528	あり	なし	暗褐色	扁平な星→板状で鉄滓が部分的に付着する。	
156	S 1 09 塵土	炉内部	39	36	30	679	なし	なし	灰色	立方体に近い形状で鉄滓が部分的に付着する。	
157	S K 01 塵土	炉内部	85	62	60	4158	なし	なし	灰色	方形の塊で表面はなめらかで鉄滓・砂が付着する。	
158	S K 02 塵土	炉内部	63	38	29	383	あり	強	黄褐色	不整形な塊状の渣と棒状の渣が結合したもので、鉄滓が全体に付着する。	
159	S K 02 塵土	炉内部	36	30	36	365	あり	強	明黄褐色	塊状で全体的に鉄滓の付着が著しい。	
160	S K 04 塵土	炉内部	52	49	39	1374	あり	強	黒褐色	角張った塊状で鉄滓が部分的に付着する。	
161	S K 04 塵土	炉内部	26	24	17	138	あり	強	明褐色	不整形な塊状で鉄滓が全体に付着する。	
162	S K 04 塵土	炉内部	16	14	12	30	あり	弱	明褐色	塊状で鉄滓が全体に付着する。	
163	S K 04 塵土	炉内部	23	16	16	56	あり	なし	暗褐色	塊状で鉄滓がわずかに付着する。	
164	I A14t II 塵	炉内部	46	44	20	383	なし	なし	黒褐色	扁平な星→板状である。表面は酸化が進み、気泡が目立つ。	
165	I A15S (S K 01 周辺) II 塵	炉内部	9.0	7.1	4.0	196.0	あり	強	黄褐色	やや扁平で凹凸がある。鉄滓が全体に付着する。	
166	I A15S (S K 01 周辺) II 塵	炉内部	3.3	2.7	2.6	27.7	あり	強	黄褐色	塊状で鉄滓が部分的に付着する。	
167	I A15S (S K 01 周辺) II 塵	炉内部	63	63	52	1573	あり	中	褐色	不整形な塊状で鉄滓が全体に付着する。	
168	I B17b II 塵	炉内部	53	52	33	721	あり	中	黄褐色	三角形の塊で全体的に鉄滓の付着が著しい。	
169	調査区焼出	炉内部	28	20	15	123	あり	中	褐色	楕円形で表面は酸化が進む。	
170	調査区焼出	炉内部	55	33	38	879	あり	弱	褐色	角張った方形で表面は酸化が進むがなめらかである。	
171	調査区焼出	炉内部	49	26	24	371	あり	弱	褐色	角張った塊状で全体的に鉄滓が付着する。	
172	調査区焼出	炉内部	36	22	18	120	あり	弱	黄褐色	歪んだ楕円形で鉄滓が全体に付着する。	
173	調査区焼出	炉内部	25	25	16	66	あり	弱	黄褐色	不整形な塊状で鉄滓が全体を覆っており、炭化材の断片が付着する。	
174	S 1 02 塵土	鉄治部	25	16	12	33	あり	弱	黄褐色	不整形で表面は鉄滓で覆われ、炭化材の付着面が見られる。	
175	S 1 02 塵土	鉄治部	25	18	11	24	あり	なし	オリーブ 灰色	不整形である。表面は滑らかで、わずかに酸化している。	
176	S 1 02 塵土	鉄治部	10.1	8.1	5.2	235.3	なし	なし	黒褐色	不整形な塊状で表面に小石や炭化材の断片が付着する。	27

鉄滓

No.	出土地点・層位	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	表面色調	特徴	写真
			長さ	幅	厚さ						
177	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	7.0	4.0	3.8	397	なし	なし	灰色	不整形な塊状で炭化材の断片が多く付着する。	
178	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	5.1	4.2	3.0	319	なし	なし	暗褐色	凹凸のある不整形である。ガス質であり、表面に気泡が目立つ。	
179	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.7	3.6	2.5	242	なし	なし	暗褐色	不整形な塊状で部分的に酸化し、炭化材の断片が付着する。	
180	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	5.2	3.2	2.7	198	なし	なし	灰色	表面がなめらかな鉄屑状で小石が結合する。	
181	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	4.6	4.1	3.0	193	なし	なし	オリーブ 黒色	船組工状で表面は滑らかなが、一部酸化する。	
182	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	4.3	4.0	2.7	190	なし	なし	浅黄色	不整形である。ガス質で表面に気泡が多く見られる。また、小石が結合する。	
183	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	4.2	3.8	3.2	162	なし	なし	灰色	船組工状の浮が折り返り重なるような形状である。炭化材の付着痕が見られる。	
184	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	4.3	3.2	3.1	153	なし	なし	灰色	表面がなめらかな鉄屑工状である。	
185	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	5.2	2.4	2.9	140	なし	なし	灰色	船組工状の浮が折り返り重なるような形状である。	
186	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	5.0	3.2	2.2	133	なし	なし	灰色	表面がなめらかな鉄屑工状である。一部錆が付く。	
187	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.7	3.5	1.6	121	なし	なし	褐色	やや扁平な不整形で表面の酸化が進む。	
188	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.7	2.4	2.2	99	なし	なし	暗灰黄色	不整形な鉄屑工状で表面はなめらかなのである。	
189	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.5	3.2	2.0	95	なし	なし	オリーブ 黒色	表面がなめらかな鉄屑工状である。	
190	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.2	3.2	1.4	84	なし	なし	暗褐色	扁平な形状で小石と結合している。炭化材の付着痕が見られる。	
191	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.9	2.5	2.2	8.3	なし	なし	灰色	表面がなめらかな鉄屑工状である。	
192	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.2	2.6	2.2	7.9	なし	なし	灰色	表面がなめらかな鉄屑工状である。	
193	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.2	2.8	2.5	7.8	なし	なし	灰白色	やや扁平な塊状で一部が酸化する。	
194	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.4	3.0	1.4	7.1	なし	なし	黒褐色	船組工状で炭化材の断片が付着する。	
195	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.4	2.3	1.7	6.6	なし	なし	黒褐色	船組工状でわずかに鉄屑が付着する。	
196	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.3	2.3	1.5	6.1	なし	なし	灰色	表面がなめらかな鉄屑工状である。	
197	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.2	2.4	2.2	6.0	なし	なし	暗灰黄色	不整形で炭化材の断片が付着する。	
198	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.9	2.5	1.8	5.0	なし	なし	暗灰黄色	表面がなめらかな不整形である。一部酸化が進む。	
199	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.4	2.3	1.6	5.0	なし	なし	オリーブ 灰色	不整形で炭化材の付着痕が見られる。	
200	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.3	1.5	1.1	4.4	なし	なし	灰色	表面がなめらかな塊である。	
201	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.3	1.8	1.5	4.2	なし	なし	暗灰黄色	不整形で炭化材の付着痕が見られる。	
202	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.8	2.2	1.5	4.2	なし	なし	暗灰黄色	不整形で炭化材の付着痕が見られる。	
203	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	3.2	1.7	1.3	4.1	なし	なし	灰色	不整形で炭化材の付着痕が見られる。	
204	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.5	1.4	1.2	3.4	なし	なし	黒褐色	不整形でわずかに鉄屑が付着する。	
205	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.3	2.2	1.3	3.1	なし	なし	褐色	不整形で炭化材の断片が付着する。	
206	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.5	2.4	1.5	3.0	なし	なし	黒褐色	船組工状で鉄屑が部分的に付着する。	
207	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.2	1.2	1.1	2.4	なし	なし	灰色	船組工状で炭化材の付着痕が見られる。	
208	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	1.9	1.1	1.0	1.9	なし	なし	浅黄色	不整形で2箇所破砕している。	
209	S 1 02 Ⅱ上	鍛冶滓	2.4	1.8	1.4	1.4	なし	なし	灰白色	やや扁平な方形である。ガス質で気泡が多く見える。	
210	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	7.3	7.0	3.5	703	あり	弱	オリーブ 黒色	船組工状の浮で炭化材の付着痕が見られる。	27
211	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	5.0	2.6	2.1	365	あり	なし	オリーブ 黒色	凹凸のある不整形で端部に鉄屑が付着し、炭化材の付着痕が見られる。	
212	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	11.8	8.5	4.1	360.2	なし	なし	オリーブ 黒色	表面がなめらかな鉄屑工状で小石・砂粒が付着する。	27
213	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	7.8	5.8	4.1	600	なし	なし	黒褐色	船組工状で一部が酸化し、小石が付着する。	27
214	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	6.6	5.2	3.1	523	なし	なし	オリーブ 黒色	不整形で表面に炭化材の付着痕が見られる。	27
215	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	4.2	3.1	3.1	181	なし	なし	灰色	船組工状の浮が折り返り重なるような形状である。炭化材の付着痕が見られる。	
216	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	5.2	3.3	2.6	161	なし	なし	灰色	船組工状の浮が折り返り重なるような形状である。炭化材の断片が付着する。	
217	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	4.1	2.6	2.5	107	なし	なし	暗灰黄色	不整形で炭化材の付着痕が見られる。	
218	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	3.6	3.1	2.8	9.1	なし	なし	暗灰黄色	不整形で炭化材の断片が付着し、付着痕も見られる。	
219	S 1 02 鉄滓集中 箇所 床面	鍛冶滓	2.4	2.2	1.8	8.0	なし	なし	褐色	不整形で一部に鉄屑が付着する。	

鉄滓

No.	出土地名・品位	種類	計測値 (mm)			重量 (g)	顕着度	メタル度	表面色調	特徴	写真
			長さ	幅	厚さ						
220	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	37	28	21	72	なし	なし	灰色	方形気味の不整形でわずかに鉄筋が付着する。	
221	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	34	27	17	66	なし	なし	灰色	不整形でわずかに気泡が見られる。	
222	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	40	24	22	64	なし	なし	黒褐色	方形気味の不整形でわずかに鉄筋が付着する。	
223	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	47	25	16	62	なし	なし	灰色	方形気味の不整形で鉄筋が全体に付着する。2箇所破砕する。	
224	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	31	22	20	53	なし	なし	黒色	船組工状でわずかに鉄筋が付着する。	
225	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	26	20	15	52	なし	なし	黒褐色	不整形で炭化材の断片が付着する。	
226	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	28	22	15	51	なし	なし	暗褐色	歪んだ角形で鉄筋が部分的に付着する。また、炭化材の断片が付着する。	
227	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	27	23	16	48	なし	なし	灰色	船組工状で小石と結合する。炭化材の付着量が見られる。	
228	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	27	19	17	47	なし	なし	灰色	不整形で表面はなめらかである。	
229	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	35	18	17	47	なし	なし	灰色	不整形で一部がわずかに消化する。	
230	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	27	26	10	38	なし	なし	灰黄褐色	扁平な不整形で鉄筋がわずかに付着する。	
231	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	20	19	16	36	なし	なし	黄褐色	不整形で鉄筋が全体に付着する。	
232	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	31	26	18	34	なし	なし	オリーブ 黒色	船組工状で炭化材の付着量が見られる。一部のみ消化する。	
233	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	28	22	16	34	なし	なし	灰色	不整形で部分的に消化する。	
234	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	29	20	13	33	なし	なし	浅黄色	船組工状で鉄筋が部分的に付着する。	
235	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	20	13	10	33	なし	なし	灰黄褐色	角形である。表面はなめらかで、一部消化する。	
236	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	33	24	11	26	なし	なし	灰黄色	扁平で炭化材の付着量がわずかに見られる。	
237	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	25	18	14	26	なし	なし	オリーブ 黒色	不整形でガスで気泡が多く見られる。	
238	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	23	22	13	25	なし	なし	灰黄褐色	不整形で鉄筋がごくわずかに付着する。	
239	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	21	17	15	25	なし	なし	灰色	船組工状で炭化材の付着量が見られる。	
240	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	25	24	10	24	なし	なし	黒褐色	扁平でガスで気泡が多く見られる。	
241	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	22	19	18	22	なし	なし	黒褐色	不整形で表面はなめらかである。	
242	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	24	20	11	22	なし	なし	オリーブ 黒色	表面がなめらかな船組工状である。	
243	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	20	15	09	17	なし	なし	褐色	角形で鉄筋や炭化材の断片が付着する。	
244	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	23	18	11	17	なし	なし	暗灰黄色	船組工状で炭化材の付着量が見られる。	
245	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	16	16	12	17	なし	なし	灰色	不整形で炭化材の付着量が見られる。	
246	S 1 02 鉄滓集中箇所 床面	鉄治滓	18	16	13	13	なし	なし	黄褐色	方形の塊状で鉄筋が全体に付着する。	
247	S 1 06 埋土	機形滓	9.1	8.5	4.1	2967	なし	なし	黄褐色	机の形を残す。上面には小石が混じり、底面には砂が付着する。	
248	S 1 04 埋土	机形滓	6.5	4.2	3.3	550	なし	なし	黄褐色	机を小割にした形で底面に砂が付着する。	
249	S 1 05 埋土	机形滓	13.2	8.7	4.1	6180	あり	強	明褐色	厚みのある机形滓で全体に鉄筋が付着する。	28
250	S 1 05 埋土	机形滓	15.4	9.3	5.3	12212	あり	中	暗褐色	厚みのある机形滓で全体的に消化が進んでいるほか、下部には炭化材の付着量も見られる。	28
251	S 1 05 埋土	机形滓	16.2	10.0	3.3	4490	あり	中	明黄褐色	やや扁平で厚みはない。上面に炭化材の断片が付着する。上・底面とも砂が付着する。	
252	S 1 05 埋土	机形滓	8.2	6.9	4.9	3437	あり	中	明黄褐色	机形滓の端部で厚みがある。上面には鉄筋、底面には砂が付着する。	
253	S 1 05 埋土	机形滓	9.6	5.2	4.2	2054	あり	弱	明褐色	机形滓の端部である。上・底面とも砂が付着する。	
254	S 1 05 埋土	机形滓	7.2	5.3	2.8	1213	あり	弱	明褐色	机形滓の端部である。底面に鉄筋が付着する。	
255	S 1 05 埋土	机形滓	6.7	5.8	3.6	1457	なし	なし	暗灰色	小割にした机形滓でわずかに砂が付着する。	
256	S 1 05 埋土	机形滓	8.2	3.6	3.4	1080	なし	なし	黄灰色	小割にした机形滓で、上・底面共に湾曲する。底面には砂が付着する。	
257	S 1 05 かわ下脇 西側 埋土	机形滓	9.2	5.0	3.7	1360	あり	弱	暗褐色	机形滓の端部で底面に砂・炭化材の断片が付着する。	
258	S 1 07 埋土	机形滓	11.7	9.5	3.9	5623	あり	強	明褐色	上面には小型の石が結合する。底面には砂が付着する。	28

鉄滓

No.	出土地点・層位	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	表面色調	特徴	写真
			長さ	幅	厚さ						
259	S 1 07 Ⅲ上	炉底滓	12.5	7.2	3.1	327.7	あり	強	黄褐色	炉底滓の層部だが、厚みはない。上面には鉄屑が付着し、底面には砂が付着する。	
260	S 1 07 Ⅲ上	炉底滓	11.6	8.0	3.7	410.5	あり	中	明褐色	炉底滓の層部である。上・底面共に小石が付着する。	
261	S 1 08 Ⅲ上	炉底滓	4.0	3.3	1.0	19.8	あり	なし	黄褐色	炉底滓の層部だが厚みはない。上面が両面する。	
262	S 1 09 Ⅲ上	炉底滓	12.4	7.8	6.3	855.4	あり	強	褐色	厚みがあり、底面には砂が付着する。全体が酸化する。	28
263	S 1 09 Ⅲ上	炉底滓	13.0	8.9	3.1	294.1	あり	中	黄褐色	炉底滓の層部である。上・底面共に鉄屑や砂・小石が付着する。上面に小石の滓が付着する。	
264	S 1 09 Ⅲ上	炉底滓	6.6	3.9	3.5	108.5	あり	弱	黄褐色	炉底滓の層部でやや厚みがある。上面は鉄屑の付着が著しい。	
265	S 1 09 Ⅲ上	炉底滓	10.5	6.0	3.8	243.5	なし	なし	褐色	炉底滓の層部でやや厚みがある。上面は小型の滓、底面は砂・小石が付着する。	
266	S 1 09 Ⅲ上	炉底滓	7.2	5.8	5.1	259.5	なし	なし	黄褐色	炉底滓の層部で厚みがある。上・底面共に鉄屑が付着し、底面のみ砂が付着する。	
267	S 1 09 Ⅲ上	炉底滓	7.9	4.6	2.8	77.8	なし	なし	褐色	炉底滓の層部だがやや厚みがない。上・底面共に鉄屑や小石が付着する。	
268	S 1 01 Ⅲ上	炉底滓	9.4	5.3	4.2	160.0	あり	強	黄褐色	小割にした炉底滓で鉄屑が全体に付着する。	
269	1 A125 (S K 01 周辺) Ⅲ層	炉底滓	9.3	5.6	4.8	217.2	あり	強	明褐色	小割にした炉底滓である。底面に砂が付着する。また上・側面に鉄屑が付着する。	
270	1 B17b Ⅲ層	炉底滓	9.9	8.3	5.1	440.3	あり	中	褐色	小割にした炉底滓である。上面は鉄屑の付着が著しく、小石も付着する。	
271	S 1 02 Ⅲ上床土	再結合滓	9.4	8.0	6.0	519.9	あり	強	黄褐色	小石が結合する。楕円形の塊状で酸化が著しい。	28
272	S 1 05 Ⅲ上	再結合滓	6.0	5.9	3.9	55.6	なし	なし	黒褐色	不整形な形状で砂・小石・鉄屑が結合する。	28
273	S 1 07 Ⅲ上	再結合滓	5.4	4.1	4.0	42.1	なし	なし	暗灰黄色	楕円角味の方形で砂粒・小石が結合する。	
274	S 1 07 Ⅲ上	再結合滓	5.5	3.6	2.6	29.6	なし	なし	灰色	砂粒・小型の滓が結合する。炉底滓の層部である。	
275	S 1 08 Ⅲ上	再結合滓	12.3	10.0	4.2	486.4	あり	強	褐色	炉底滓に小石が結合したものである。	
276	1 A125 (S K 01 周辺) Ⅲ層	再結合滓	6.1	2.7	2.8	32.9	なし	なし	黒褐色	不整形な形状で小石と小型の滓が結合する。	
277	1 B17b Ⅲ層	再結合滓	7.5	6.7	4.0	173.4	あり	弱	灰色	上面に小石が結合する炉底滓の層部である。	
278	S 1 02 Ⅲ上	流出滓	5.8	5.2	2.9	88.5	なし	なし	灰色	角張っている。表面はなめらかで部分的に酸化する。	28
279	S 1 02 Ⅲ上	流出滓	3.3	2.8	2.0	20.9	なし	なし	黒褐色	三角形で表面はなめらかである。部分的に酸化する。	
280	S 1 04 Ⅲ上	流出滓	5.5	4.8	3.0	86.2	なし	なし	褐色	やや角張った方形状である。鉄屑の一部に付着する。	
281	S 1 04 Ⅲ上	流出滓	4.3	3.3	3.0	46.6	なし	なし	青灰色	不整形である。表面はなめらかで、地山の土が付着する。	
282	S 1 05 Ⅲ上	流出滓	6.0	3.7	2.2	33.2	あり	なし	灰色	やや扁平な不整形である。多少の凹凸はあるが、表面はなめらかである。	
283	S 1 05 Ⅲ上	流出滓	5.3	4.7	3.1	45.2	なし	なし	灰色	方形気味の不整形である。上面に細かい突起が見られる。下面には地山の土が付着する。	
284	S 1 05 Ⅲ上	流出滓	6.1	4.1	2.5	43.8	なし	なし	灰色	表面はなめらかで、地山の土が全体に付着する。	
285	S 1 05 Ⅲ上	流出滓	4.6	2.2	2.3	26.4	なし	なし	灰色	楕円に近い角張った形状である。上面が細かい突起になっている。地山の土が付着する。	
286	S 1 05 Ⅲ上	流出滓	4.8	2.7	1.2	21.4	なし	なし	靑灰色	扁平で厚みはない。下面に砂が付着する。	
287	S 1 05 Ⅲ上	流出滓	4.9	3.2	2.1	20.2	なし	なし	灰色	不整形である。表面はなめらかで、地山の土が付着する。	
288	S 1 05 Ⅲ上	流出滓	4.4	2.0	1.9	14.2	なし	なし	灰色	斜りに流出した滓である。地山の土が付着する。	
289	S 1 05 Ⅲ上	流出滓	3.6	1.8	1.3	6.6	なし	なし	灰色	斜りに流出した滓である。地山の土が付着する。	
290	S 1 05-PI Ⅲ上	流出滓	8.2	5.9	3.6	180.1	あり	弱	褐色	斜りに流出した滓である。下面に砂が付着する。	
291	S 1 08 Ⅲ上	流出滓	7.1	6.5	2.0	60.7	なし	なし	灰色	凹凸のある不整形である。	
292	S 1 06 Ⅲ上	流出滓	5.8	4.7	1.5	60.3	なし	なし	灰色	表面はなめらかで、複数の滓が結合している。下面には砂が付着する。	28
293	調査区検出	流出滓	4.7	3.5	2.8	60.1	あり	弱	オリブ灰色	角張った塊状で鉄屑が全体に付着する。	
294	調査区検出	流出滓	4.1	2.6	2.5	30.1	なし	なし	灰色	角張った形状である。	
295	調査区検出	流出滓	4.3	3.5	2.2	38.0	なし	なし	褐色	不整形で全体に鉄屑が付着する。	

磁着度：標準磁石を用い、鉄滓が磁着する距離から12段階に分類したものを。

12 : 72mm 11 : 66mm 10 : 60mm 9 : 54mm 8 : 48mm 7 : 42mm 6 : 36mm 5 : 30mm 4 : 24mm 3 : 18mm 2 : 12mm 1 : 6mm

第4表 鉄湧一覽表

出土地点(遺跡名)	層位	室内障			印電障		朝内		流出障		流出孔障	工具付着障	砂鉄埋着障	再結合障		附合障		機形洋磁着有	粘土層	総計
		含鉄(大)	含鉄(中)	含鉄(小)	含鉄(中)付着のみ	磁着有	磁着無	朝内	流出障	ガス質				磁着	磁着有	磁着無	磁着有			
S I 02	埋土	44.9	26.3	-	37	-	-	-	-	1094	-	-	-	-	57	5801	-	-	7701	
S I 02	鉄滓集中箇所	-	-	-	304	-	-	-	-	-	-	-	-	-	868	4354	-	-	5526	
S I 04	埋土	58.1	-	42.6	2.9	-	35	-	-	1328	-	-	-	519.9	-	-	-	-	791.4	
S I 04	床面	246.8	79.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	326.7	
S I 05	埋土	1573.2	618.2	204.9	128	161.2	2538.6	253.7	-	211	-	-	-	55.6	-	-	-	-	6049.2	
S I 05	カマド内側	-	-	-	-	-	-	126.0	-	1801	-	-	-	-	-	-	-	-	1801	
S I 06	埋土	128.7	83.6	26.2	11.7	5.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	126.0	
S I 07	埋土	57.6	398.7	28	594	-	1300.5	-	-	-	-	-	-	71.7	-	-	-	296.7	552.4	
S I 07	泉頭直上	-	19.5	37.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1885.9	
S I 08	埋土	-	7.1	3.6	-	19.8	-	-	-	607	-	-	-	-	-	-	-	-	566	
S I 09	埋土	-	14.5	148.4	528	67.9	1278	600.8	-	-	-	-	-	486.4	-	-	-	-	577.6	
S K 01	埋土	-	-	-	415.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2162.4	
S K 02	埋土	74.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	415.8	
S K 04	埋土	151.2	-	3	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	748	
S L 01	埋土	-	-	-	-	160	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1598	
S L 05	埋土	-	-	-	-	-	-	-	-	60.3	-	-	-	-	-	-	-	-	1600	
I A14	II層	-	-	-	-	38.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.3	
I A15a(S K 01周辺)	II層	223.3	157.2	-	-	217.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28.3	
I B17b	II層	-	72.1	-	-	440.3	-	-	-	-	-	-	-	173.4	-	-	-	-	631.1	
小計		3073.7	1440.5	407.3	562.7	320.0	6500.4	909.5	-	754.3	-	-	-	1179.7	160.2	92.5	1035.5	296.7	-	16807.0

磁着度：標準磁石を用い、磁石が磁着する距離から12段階に分類したものを。

12 : 72mm 11 : 66mm 10 : 60mm 9 : 54mm 8 : 48mm 7 : 42mm 6 : 36mm 5 : 30mm 4 : 24mm 3 : 18mm 2 : 12mm 1 : 6mm

第5表 土器重量表

遺構内

出土地点	土師器	須恵器	合計
S I 02	2021.1	27.8	2048.9
S I 04	1524.1	284.3	1808.4
S I 05	5470.6	485.0	5955.6
S I 06	290.4		290.4
S I 07	1795.5		1795.5
S I 09	103.7		103.7
S K 01	62.9		62.9
S K 02	9.7	623.4	633.1
S K 04	197.9		197.9
S L 01	29.0		29.0
S L 03	61.9		61.9
計	11566.8	1420.5	12987.3

総重量 1

土師器		須恵器	
遺構内	遺構外	遺構内	遺構外
11566.8	676.4	1420.5	204.0
12243.2		1624.5	

遺構外

出土地点	土師器	須恵器	合計
I A 14 t	49.2	31.1	80.3
I A 15 s	92.4	31.1	123.5
I A 16 r	78.5		78.5
I A 17 r	12.5		12.5
I A 19 r	21.2		21.2
I B 16 b	79.6		79.6
I B 17 b	68.0		68.0
II A 3 s	31.5		31.5
I A 17 p	48.6		48.6
表探	194.9	141.8	336.7
計	676.4	204.0	880.4

総重量 2

遺構内		遺構外		合計
土師器	須恵器	土師器	須恵器	
11566.8	1420.5	676.4	204.0	13867.7

*単位はすべてg

VI 総 括

今回行った荷竹日影Ⅱ遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設事業に伴うもので、平成27年の4月16日～7月10日まで行った。調査対象面積は2,100㎡で、遺跡全体の約1/10にあたる。

見つかった遺構は古代の竪穴住居跡9棟、土坑4基、焼成遺構6基である。竪穴住居跡はいずれも斜面の傾斜に沿って構築され、S I 03以外は斜面低位側の壁面・床面は削平され、残存しない。残存する壁面間幅は最大がS I 05で6.93m、最小がS I 03で2.98m、平均は4.71mで、S I 05以外は5.34m以下で全体に小～中規模といえる。カマドはS I 02の新カマド以外は斜面の高位側にある壁面に設けられ、煙道はいずれも住居壁面をトンネル状に列り抜いて掘られ、先端部が垂直に掘られた煙出と繋がっている。ほとんどのカマドに芯材や支脚としていた礫があり、S I 05・09のカマド右袖脇には土坑がある。床面施設をみると柱痕跡を確認できたものはS I 09のみで、他にS I 06の南西壁付近に土坑がある。またS I 02・04・05・07では壁面に沿って幅20～25cmの溝が巡らせている。焼成遺構は6基で、S L 01～05は円～楕円形を呈し、底面の一部に焼土や炭化物層が広がっている。土器は含まれず、S L 01の埋土から鉄滓が160g出土したのみである。S L 06は細長い楕円形で、底面全体に炭層・焼土層があり、出土した炭化材はケヤキやナラなど燃焼効率の高い材であることから、炭窯の可能性が考えられる。

今回の調査では製鉄炉や排滓場は見つかっていないが、S I 02床面からは鍛冶滓をはじめ、多くの遺構から鉄滓が出土しており、また遺構から出土する土器は少なく、鉄製品が比較的多いのが特徴であることから鉄生産に関連した作業に従事していた集団による集落である可能性が考えられる。調査区より高位面である北側の斜面～頂部一帯は、現在土取りのために消失しており、詳細は明らかではないが、今回の調査状況から鍛冶関連遺構などが存在した可能性も考えられる。また、遺物が散落的に出土した弥生時代中～後期については調査区内に遺構は確認されておらず、遺物の出土状況から削平された丘陵地高位面に集落が存在していた可能性が考えられる。

以上のことから、今回の調査では弥生時代と平安時代の2期に生活場として利用されたことが明らかになった。今後は荷竹日向Ⅰ遺跡をはじめとする周辺遺跡との関連性を検討することにより、荷竹日影Ⅱ遺跡の詳細が明らかになると期待したい。

引用・参考文献

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2015『払川Ⅱ・払川Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第643集

2010『金沢Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第553集

2011『八木沢野米遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第573集

2013『佐原Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第619集

宇部剛保 2013『古代馬淵川流域周辺の土器様相』「研究紀要」2 八戸市埋蔵文化財センター＝川縄文館
宮古市教育委員会

1991『払川Ⅰ遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書第29集

2005『払川館跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書第64集

2008『荷竹日向Ⅳ遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書第74集

2011『宮古市遺跡分布調査報告書7』宮古市埋蔵文化財調査報告書第78集

写真図版



遺跡透景・S→



調査区全景・上が北



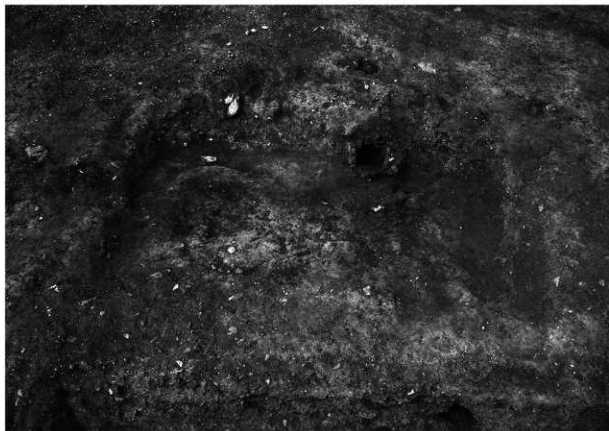
調査前風景・SW→



調査区（表土除去後）・SW→



基本土層・W→



全景・SW →



断面・NW →



断面・SW →



カマド全景・SW→



カマド煙道部断面・NW→



カマド燃焼部覆土断面・NW→



カマド煙道部完掘・SW→



カマド袖部断面・SW→



カマド燃焼部焼土断面・NW→



粘床断面・NW→



完掘・SW→



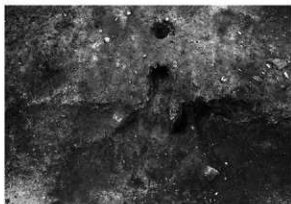
全景・SE→



断面・NW→



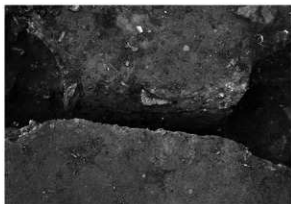
断面・SW→



北西カマド全景・SE →



北西カマド煙道部断面・SW →



北西カマド煙道部断面・SW →



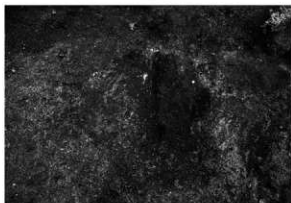
北西カマド袖部・燃焼部断面・SE →



北東カマド煙道部断面・NW →



北東カマド燃焼部断面・NW →



炭化物検出状況・SW →



完掘・SW →



全景・SW →



断面・NW →



断面・SW →



カマド全景・SW→



カマド燃焼部覆土断面・SW→



カマド燃焼部覆土断面・NW→



カマド煙道部完掘・SW→



カマド燃焼部焼土断面・NW→



カマド燃焼部焼土断面・SW→



カマド袖部断面・SW→



完掘・SW→



全景・SW→



断面・SW→



断面・NW→



カマド全景・SW→



カマド煙道部断面・NW→



カマド袖部断面・SW→



カマド燃焼部焼土断面・NW→



SK 1 断面・NW→

写真図版 10 S I 04 竪穴住居跡 2



全景・SW→



断面・SW→



断面・NW→



カマド全景・SW→



カマド煙道部断面・NW→



カマド燃焼部覆土断面・NW→



カマド袖部断面・SW→



焼土1断面・SW→



焼土2断面・SW→



SK 1 完掘・SW→



SK 1 断面・SE→



平面・SW→



断面・SW→



断面・NW→



カマド煙道部完掘・SW→



カマド煙道部断面・SE→



カマド燃焼部焼土断面・NW→



全景・SW →



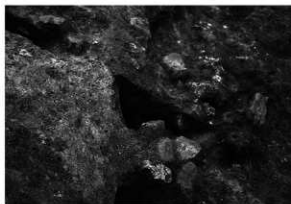
断面・SW →



断面・NW →



カマド全景・SW→



カマド燃焼部覆土断面・NW→



カマド煙道部断面・NW→



カマド袖部断面・SW→



カマド燃焼部断面・NW→



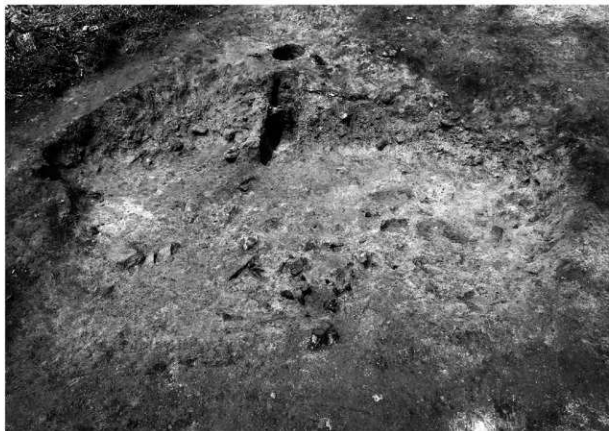
焼土検出・S→



焼土断面・SE→



粘床断面・SW→



全景・SW→



断面・SW→



断面・NW→



カマド全景・SW→



カマド燃焼部覆土断面・SW→



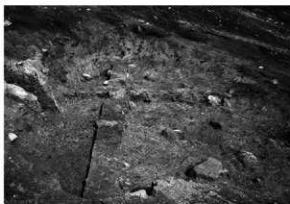
カマド燃焼部覆土断面・NW→



カマド煙出部断面・NW→



カマド煙道部断面・NW→



貼床断面・NW→



貼床断面・SW→



完掘・SW→



全景・NW→



断面・SW→



断面・NW→



カマド全景・SW→



カマド煙道部断面・NW→



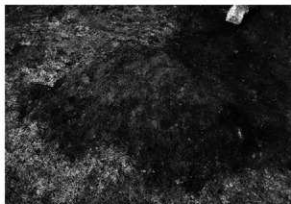
カマド燃焼部覆土断面・SW→



カマド袖部断面・SW→



カマド燃焼部焼土断面・NW→



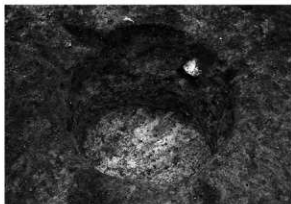
焼土横出・S→



貼床断面・NW→



完掘・SW→



S K 01 完掘・SW →



S K 01 断面・NW →



S K 02 完掘・SW →



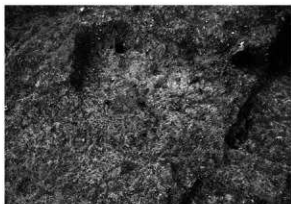
S K 02 断面・SW →



S K 03 断面・NW →



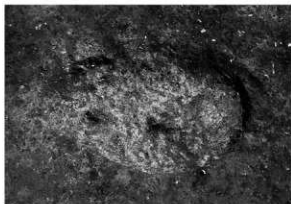
S K 04 断面・NW →



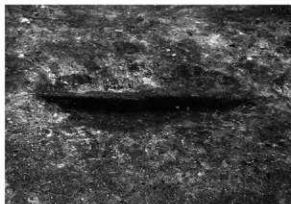
S L 01 完掘・SW →



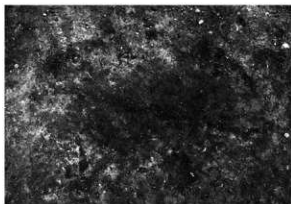
S L 01 断面・NW →



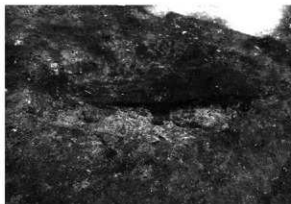
S L 02 完掘・SW →



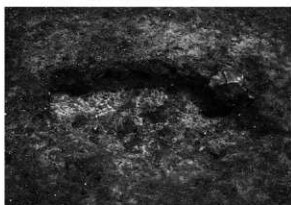
S L 02 断面・SW →



S L 02 炭化物検出・S →



S L 02 炭化物層断面・SW →



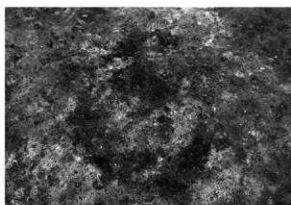
S L 03 完掘・SW →



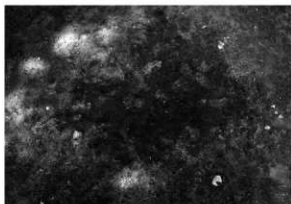
S L 03 断面・SW →



S L 03 焼土断面・SW →



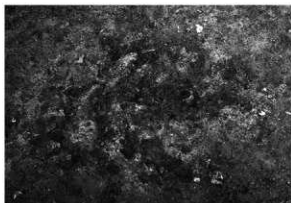
S L 04 検出・S →



S L 05 炭化物検出・SW →



S L 05 炭化物断層面・SW →



S L 05 焼土検出・SW →



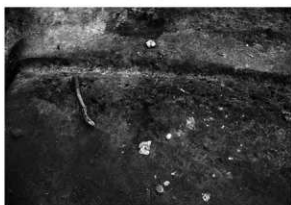
S L 05 焼土断層面・SW →



S L 06 炭化物検出・SE →



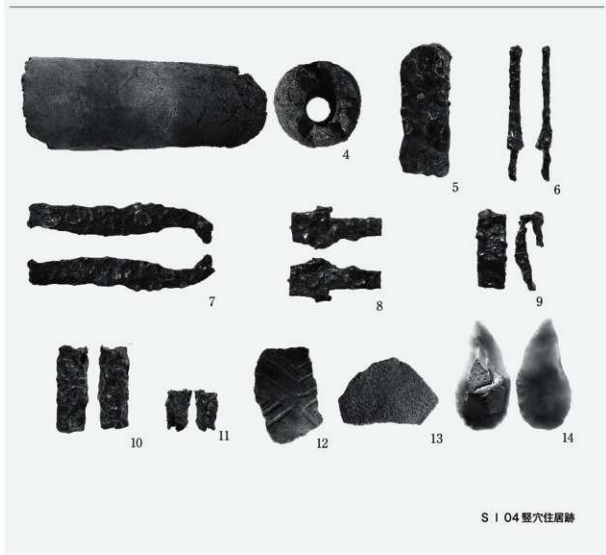
S L 06 炭化物断面・SW →



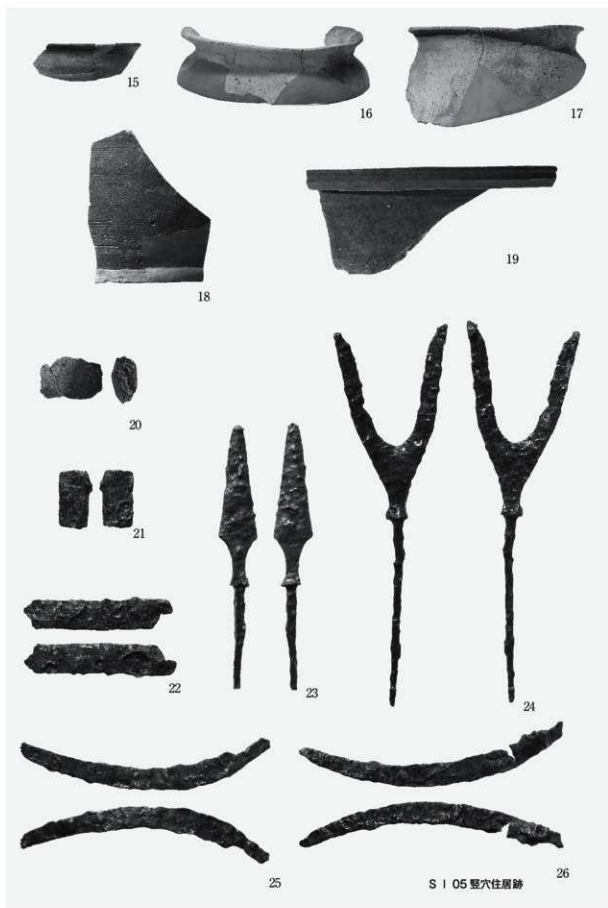
S L 06 焼土検出・SW →



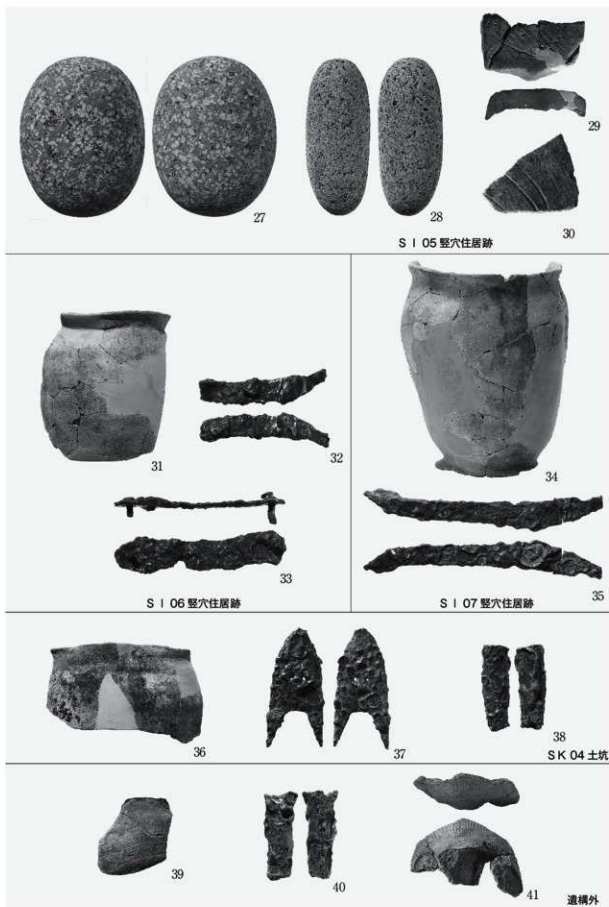
S L 06 焼土断面・NW →



写真図版 24 遺構内出土遺物 1



写真図版 25 遺構内出土遺物 2



写真図版 26 遺構内出土遺物 3、遺構外出土遺物

炉内滓



鑪治滓



伊底洋



再結合洋



流出洋



写真図版 28 鉄滓類 2

報告書抄録

ふりがな	にちくひかげ2いせきはくつちようさほうこくしょ							
書名	荷竹日影Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 675 集							
編著者名	前浩二郎							
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	西暦 2017 年 2 月 28 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
荷竹日影Ⅱ遺跡	岩手県宮古市津軽石第 15 地割 33-1 ほか	32026	LG63-0280	39 度 33 分 23 秒	141 度 55 分 33 秒	2015.04.16 ～ 2015.07.10	2,100	三陸沿岸道路
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
荷竹日影Ⅱ遺跡	散布地	弥生			土器、石器		平安時代の集落跡である	
	集落跡	古代	竪穴住居跡 土坑 焼成遺構	9 棟 4 基 6 基	土師器、須恵器、金属遺物、 羽口、石器、鉄滓			
要約	弥生時代～古代の複合遺跡で、弥生時代は遺構がなく、土器が散布して見つかった。古代の遺構は竪穴住居跡をはじめ、土坑類が見つかった。炭化物・焼土などの焼成痕跡が確認できる土坑や、遺構の多くから鉄滓が出土することから、鍛冶関連の遺跡と考えられる。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 675 集

荷竹日影Ⅱ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路関連遺跡発掘調査

印刷 平成 29 年 2 月 20 日

発行 平成 29 年 2 月 28 日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地

電話 (019)638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

〒027-0029 岩手県宮古市藤の川 4 番 1 号

電話 (0193)71-1716

(公財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号

電話 (019)654-2235

印刷 株式会社五六堂印刷

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-16-15

電話 (019)654-5610

©(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2017